

教育委員会の所管事務に係る 自己点検・評価報告書

〔令和 6 年度事業分〕

令和 7 年 9 月

南島原市教育委員会

目 次

(頁)

自己点検・評価報告書の作成の仕方について	(1)
教育委員会の所管事務に係る自己点検・評価について	(5)
学識経験者の所見	(7)
自己点検・評価	(15)

第1 教育委員会の活動及び管理執行事務 (16)

1 教育委員会及び教育委員の活動 (16)

- (1) 教育委員会会議の運営及び情報発信
- (2) 教育委員と事務局との連携
- (3) 教育委員会と市との連携
- (4) 教育機関等との連携
- (5) 教育委員の研修等

2 教育委員会が管理又は執行する事務(教育長に委任できない事務) . . . (18)

- (1) 教育行政運営に関する一般方針の決定
- (2) 学校その他教育機関の設置又は廃止の決定
- (3) 県費負担教職員の懲戒並びに小学校長及び中学校長の任免その他の進退についての内申
- (4) 教育次長、課長及びその他の教育機関(小学校及び中学校を除く)の長の任免
- (5) 学校その他の教育機関の敷地の選定及び変更の決定
- (6) 教育委員会規則の制定又は改廃
- (7) 教育予算その他議会の議決を経るべき事件の議案に関する意見
- (8) 教育委員会の所管に属する各種委員会の委員の任命又は委嘱
- (9) 教科用図書の採択に関する基本方針の決定
- (10) 学齢児童生徒の就学すべき学校の区域の設定又は変更の決定
- (11) 市文化財の指定又は指定の解除の決定
- (12) 地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項の規定による教育委員会の権限に属する事務についての点検及び評価並びに公表

第2 教育委員会事務局の執行事務(教育委員会から教育長が委任されている事務) . . . (20)

1 学校教育の充実 (20)

- 1 「人間力」を育む教育の推進
 - (1) 生きるための学力と人間力の向上
 - (2) 学校体育・学校保健の充実
 - (3) 地域に根ざした教育の推進
 - (4) 教職員・指導者の育成
- 2 学校生活・就学支援
 - (1) 学校生活の支援
 - (2) 就学への支援
 - (3) 高等学校教育・高等教育への支援

- 3 教育環境の整備
 - (1) 適正規模・適正配置の推進
 - (2) 学校施設の充実
 - (3) 子どもたちの安全確保

2 社会教育の推進 (31)

- 1 学習機会の充実
 - (1) 学びの場の提供
 - (2) 図書館活動の充実
 - (3) 地域交流活動拠点施設の活性化
 - (4) 生涯学習施設の維持管理
 - (5) 教育 DX の推進・デジタル人材の育成
- 2 青少年の健全育成
 - (1) 青少年の健全育成
- 3 文化・芸術の振興
 - (1) 文化・芸術への鑑賞・創造・参加機会の充実
 - (2) 本市の魅力を高める文化・芸術活動の振興
 - (3) 市民文化・芸術活動の推進
 - (4) 伝統文化・伝統芸能の保存と継承
- 4 その他

3 スポーツの振興 (41)

- 1 生涯スポーツの推進
 - (1) 生涯を通じたスポーツの推進
 - (2) 各種スポーツ教室の実施
 - (3) シニアスポーツの推進
 - (4) スポーツにおけるDXの推進
 - (5) 各種スポーツクラブ等の育成
- 2 スポーツ力の強化
 - (1) スポーツイベントの実施
 - (2) 社会体育施設の整備

4 文化財の保護と活用 (45)

- 1 歴史・文化財の保護と保存整備・活用
 - (1) 「原城跡」・「日野江城跡」の保存整備
 - (2) 市内文化財の保存整備
 - (3) 文化財周辺の環境保全
- 2 歴史・文化財の活用と普及
 - (1) 歴史・文化財の活用と普及の推進
 - (2) 歴史・文化施設等の環境整備と適正な維持管理
- 3 世界遺産を活用したまちづくりの推進と適切な保全
 - (1) 世界遺産センターの整備
 - (2) ガイダンス機能の充実
 - (3) 世界遺産市民協働会議活動の充実
 - (4) 世界遺産の適切な保全と活用

自己点検・評価報告書の作成の仕方について

- 1 教育委員会の所管事務について、項目ごとに、点検・評価のコメント及び活動内容について記載しました。

教育委員会事務局の執行事務の項目については、「第2期南島原市教育振興基本計画」の施策体系ごとに達成度と評価を記載しました。

なお、「第2期南島原市教育振興基本計画」の施策（Plan）を点検対象とし、その取組状況（Do）を評価検証する（Check）とともに、目的達成に向けた課題を明確化し、次年度以降の取組の方向性を示す（Action）、PDCAサイクルによる計画の適切な進捗管理を行います。

【達成度】

◎第1教育委員会の活動及び管理執行事務

達成	達成率 100%以上
概ね達成	達成率 80%～99%
未達成	達成率 80%未満
未実施	事業を実施しなかったもの

◎第2教育委員会事務局の執行事務（教育委員会から教育長が委任されている事務）

A	計画を上回って進捗
B	計画どおり進捗
C	一部課題はあるが概ね計画どおり進捗
D	計画に全体的な遅れがある
E	計画の大部分が未達成

※「第2期南島原市教育振興基本計画」の最終年度（令和10年度）に対する、令和6年度の進捗状況を達成度で示しています。

【評価】

継続	今後も対象範囲や条件等を変えずに予定どおり（計画どおり）実施するもの
拡充	今後、対象範囲や条件、規模等を拡大・追加して実施するもの
縮小	今後、対象範囲や条件、規模等を縮小して実施
改善	規模や対象等の変更を伴わず、事務手法等を改善する
統合	事業の再編や事務の簡素化等のため別の事業に統合する
完了・廃止	事業の完成などにより事業を終了するもの

- 2 回数や人数など、令和6年度の数値（実績）が前年度と比較できるものについては、令和5年度の数値を〔 〕書きで掲載しました。
- 3 「第2期南島原市教育振興基本計画」の指標（数値目標）があるものについては、各年度の目標及び実績を記載しました。
- 4 「2 社会教育の推進 4 その他」へ施策体系にない「社会教育委員兼公民館運営審議会委員の活動」、「子ども会育成事業」、「青少年健全育成事業」の実績を掲載しました。

■ 施策体系

施策の柱	施策	施策細分	主な事業や取組
	学校教育の充実【5-1】		
	1 「人間力」を育む教育の推進【5-1-2】		
	(1) 生きるための学力と人間力の向上	①	主体的・対話的で深い学びの実現
		②	市学力調査の実施
		③	外国語教育の推進
		④	教育DXの推進
		⑤	道徳教育
		⑥	人権教育の推進
		⑦	平和教育
		⑧	キャリア教育
		⑨	読書活動
		⑩	校種間の円滑な接続
		⑪	学校給食を通じた食育の推進
	(2) 学校体育・学校保健の充実	①	体力・運動能力調査の実施
		②	体力向上支援事業等の活用
		③	中学校総合体育大会の推進
		④	部活動の地域移行
		⑤	感染症への対応
		⑥	性教育の充実
		⑦	学校保健会との連携
	(3) 地域に根ざした教育の推進	①	ふるさと学習（郷土学習）
		②	北村西望賞教育美術展の実施
		③	古野賞科学技術展の実施
		④	コミュニティ・スクール（学校運営協議会）の設置
		⑤	「普賢岳噴火災害を語り継ぐ日（9月15日）」の実施
	(4) 教職員・指導者の育成	①	教職員研修
		②	学校訪問
		③	研究指定
		④	学校支援共同実施連絡協議会
		⑤	学校支援員の配置
	2 学校生活・就学支援【5-1-4】		
	(1) 学校生活の支援	①	就学相談の実施
		②	就学时健康診断の実施
		③	教育支援委員会の設置
		④	特別支援教育助手の配置
		⑤	コーディネーター研修会の実施
		⑥	心の教室相談員の配置
		⑦	南島原市適応指導教室（つばさ）の運営
		⑧	スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの配置
	(2) 就学への支援	①	就学援助
		②	遠距離通学支援
		③	給食費の補助
	(3) 高等学校教育・高等教育への支援	①	奨学資金貸付金
		②	奨学資金償還補助金
	3 教育環境の整備【5-1-3】		
	(1) 適正規模・適正配置の推進	①	適正規模・適正配置事業
(2) 学校施設の充実	①	学校施設の耐震化工事	
	②	学校施設整備・改修事業	
	③	ICT機器活用環境の整備	
	④	学校給食センターの円滑な運営	
(3) 子どもたちの安全確保	①	学校施設安全点検	
	②	防犯カメラの設置	
	③	通学路の安全点検の実施	

施策の柱	施策	施策細分	主な事業や取組
社会教育の推進【2-2】【5-1】【5-2】			
	1 学習機会の充実【5-1-1】【5-2-1】	(1) 学びの場の提供	① 公民館講座
			② 家庭教育支援の充実
			③ 地域人材の育成
		(2) 図書館活動の充実	① 子ども読書活動推進事業
			② 読書サポーター養成事業
		(3) 地域交流活動拠点施設の活性化	① 地域活性化フォーラムの開催
		(4) 生涯学習施設の維持管理	① 社会教育施設の整備
			② 社会教育施設の適正配置
		(5) 教育DXの推進・デジタル人材の育成	① 公民館講座等のデジタル活用推進
			② 図書館のデジタルライブラリー事業の推進
			③ 社会教育施設管理DXの推進
	2 青少年の健全育成【5-2-2】	(1) 青少年の健全育成	① 放課後子ども教室推進事業（寺子屋21）
			② 通学合宿事業
			③ 地域学校協働活動推進事業
			④ 人権教育推進事業
			⑤ 高校生キャリア教育事業
	3 文化・芸術の振興【2-2-1】	(1) 文化・芸術への鑑賞・創造・参加機会の充実	① 芸術文化振興事業
			② 子ども芸術鑑賞事業
		(2) 本市の魅力を高める文化・芸術活動の振興	① 文化団体育成支援事業
			② セミナリヨ現代版画展開催事業
		(3) 市民文化・芸術活動の推進	① アートビレッジ・シラキノ事業
		(4) 伝統文化・伝統芸能の保存と継承	① 郷土芸能保存継承支援事業

施策の柱	施策	施策細分	主な事業や取組
スポーツの振興【5-3】			
	1 生涯スポーツの推進【5-3-1】	(1) 生涯を通じたスポーツの推進	① 南島原市スポーツ協会との連携
			② 南島原市スポーツ推進委員会との連携
			③ 総合型地域スポーツクラブ「TEAMひまわり」との連携
			④ 部活動の地域移行
			⑤ 各種スポーツ大会運営費等支援事業
		(2) 各種スポーツ教室の実施	① 小学生水泳教室の実施
			② マリンスポーツ教室の実施
			③ 自然体験事業の実施
		(3) シニアスポーツの推進	① シニア向け運動教室の実施
		(4) スポーツにおけるDXの推進	① eスポーツの推進
			② 社会体育施設管理DXの推進
		「人間力」を育む教育の推進【5-1-2】 (5) 各種スポーツクラブ等の育成	① 小中学生スポーツ大会出場支援事業
			② 小学校社会体育活動支援事業
	2 スポーツ力の強化【5-3-2】	(1) スポーツイベントの実施	① 市民スポーツ大会の実施
			② 原城マラソン大会の実施
			③ スポーツ専門指導員育成講習会や講演会の開催
		(2) 社会体育施設の整備	① 社会体育施設の整備・管理
			② 社会体育施設の活用

施策の柱	施策	施策細分	主な事業や取組
文化財の保護と活用【2-1】			
	1 歴史・文化財の保護と保存整備・活用【2-1-1】		
	(1)「原城跡」・「日野江城跡」の保存整備	①	原城跡保存整備事業
		②	日野江城跡保存整備事業
		③	指定文化財公有化事業
	(2)市内文化財の保存整備	①	埋蔵文化財発掘調査事業（開発事業）
		②	埋蔵文化財発掘調査事業（学術目的）
		③	文化財の指定
	(3)文化財周辺の環境保全	①	指定文化財等の巡視及び清掃活動
	2 歴史・文化財の活用と普及【2-1-2】		
	(1)歴史・文化財の活用と普及の推進	①	指定文化財及び遺跡情報等の周知活動
	(2)歴史・文化施設等の環境整備と適正な維持管理	①	企画展等の開催
	3 世界遺産を活用したまちづくりの推進と適切な保全【2-1-3】		
	(1)世界遺産センターの整備	①	原城跡世界遺産センター整備事業
	(2)ガイダンス機能の充実	①	歴史資料調査及び展示用コンテンツ作成事業
		②	VR等デジタルコンテンツ整備活用事業
	(3)世界遺産市民協働会議活動の充実	①	世界遺産市民協働会議との連携事業
	(4)世界遺産の適切な保全と活用	①	世界遺産推進事業
		②	世界遺産周知啓発・情報発信事業
		③	原城跡来訪者対応事業

教育委員会の所管事務に係る自己点検・評価について

令和6年度の所管事務について、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定に基づき、自己点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成しました。なお、学識経験者の知見の活用については、お二人にそれぞれ所見をいただきました。

自己点検及び評価に当たっては、客観的な視点に立って実施し、その結果、特筆すべき事項として次の点が挙げられます。

教育委員会の活動においては、ホームページによる詳細な会議録を毎回公開し、積極的な情報発信を行いました。さらに、学校訪問や研究発表会への参加により、市や学校との連携を図るとともに、県市町教育委員会合同研修会等の外部研修に参加し、情報交換や研鑽に努めました。

学校施設整備においては、南島原市内学校施設の中長期的な維持管理に係るトータルコストの縮減、予算の平準化及び学校施設に求められる機能・性能を確保するため策定した、「南島原市学校施設長寿命化計画」（令和元年度～令和38年度）に沿って、更なる安全性向上を図るための非構造部材耐震化改修工事を進めております。また、老朽化した施設の維持管理については、大規模修繕とならないよう事前に投資する予防保全型の管理体制の足がかりとして、屋上屋根の防水工事を中心に整備改修を行いました。

学校教育においては、確かな学力・豊かな心と志・健やかな体を育む教育の推進に努めました。個々の児童生徒にきめ細やかな対応ができるよう、特別支援教育助手、学校支援員、心の教室相談員等を各学校の実情に応じて配置しました。また、教職員のスキルアップを図るための教職員研修「With」の実施や計画的な学校訪問等を行い、学校力の向上を目指しました。その他、生きるための学力と人間力の向上を目指した研究指定や就学・教育支援、子どもの悩み相談事業等を展開するとともに、総合学習事業により、各学校の横断的・総合的な学習を支援しました。学校給食センターについては、供用開始から3年が経過し、安全・安心な学校給食を提供しております。今後も各事業を効果的・継続的に推進してまいります。

社会教育の推進においては、青少年教育事業をはじめ、子どもリーダー研修などの子ども会育成事業を実施しました。また、南島原市保護者支援士養成講座や親子体験型家庭教育学級、親育ち講座を開催し、家庭教育支援に関わる地域人材の育成や乳幼児を持つ親の学習機会の充実に取り組みました。各地区の公民館事業においても、各種講座を実施し、学びの場を提供しました。図書館事業では、市子ども読書活動推進計画に基づいた取組として、幼稚園、保育園及び認定こども園と連携して未就学児の読書推進に取り組みました。文化・芸術活動事業では、アートビレッジ・シラキノにおいて、版画以外の企画展を開催し、来場者増につながりました。今後も家庭教育支援と子どもの健全育成を柱に、社会教育施設等における人生各期における学びの機会の充実と学びの成果を地域に還元できる持続可能な人材の育成に努めてまいります。

スポーツの振興においては、子ども達を対象とした「マリンスポーツ教室」や「自然体験事業」に多くの参加があり、本市の自然環境を活かした郷土愛の醸成を図りました。「第32回原

城マラソン大会」につきましては、前回大会に引き続き通常規模で開催し、約 1,400 人の参加がありました。また、部活動地域展開においては、関係団体と連携し、学校体育としての位置づけから一部は地域活動（社会体育）として位置づけ、スポーツ・文化活動を持続可能な活動にする取り組みを行いました。今後も市民の健康増進とスポーツ競技力の向上及びスポーツによる交流人口の拡大を図り、地域の活性化につながる事業を進めてまいります。

文化財行政においては、国・県及び市指定文化財の保存・管理のための定期的な巡回や除草作業等の実施及び施設等の整備、資料館の修繕、収蔵品の燻蒸処理を行うとともに、企画展などを実施し入館者の増加に努めました。今後も適切な維持・管理に努めるとともに、文化財の保存と活用に努めてまいります。また、県営基盤整備に伴う水打場遺跡の発掘調査などを行いました。今後も遺跡の発掘調査を継続しながら、保存と記録を行ってまいります。国指定史跡原城跡及び日野江城跡については、普遍的な価値を有するかけがえのない文化財として維持管理に努め、調査・整備を進めてまいります。原城跡においては、近年の調査結果を広く周知するために企画展を開催いたします。

世界遺産推進においては、重要施策である世界遺産センター整備事業につきまして、令和 6 年 10 月の展示工事を皮切りに、事業認定の手続きを経て、用地取得、移転補償が完了し、造成工事を発注するとともに、建築工事、電気設備工事、機械設備工事についても契約を行い、本格的に事業着手をしたところであります。世界遺産センターは、世界遺産の価値を伝えるガイダンス施設としてだけでなく、地域の物産振興や観光振興面でも核となり得る施設として整備することとしており、関係部署や民間組織との連携を深めながら着実な事業の実施に向けて取り組みを進めてまいります。

また、市内外に原城跡を PR するために、南島原市世界遺産市民協働会議を中心として、企画展の開催や県外で開催されるお城 EXPO などに出展するなど、積極的に周知啓発活動を実施し、多くのお客様に参加いただきました。また、世界遺産の価値をより広く伝えるために、原城跡のパンフレットの配布や「原城 VR」の貸し出しなどを行うとともに、世界遺産の保存のための取り組みとして、保全状況報告のためのモニタリングや遺産影響評価を実施しました。

令和 7 年 9 月

南島原市教育委員会

学 識 経 験 者 の 所 見

「教育委員会の所管事務に係る自己点検・評価報告書 〔令和6年度事業分〕」についての所見

第1 教育委員会の活動及び管理執行事務

1 教育委員会及び教育委員の活動

各種会議が計画的に実施され、審議が漏れなく行われている。会議開催にあたっては、事前に資料を配付するなどきめ細やかな対応がなされている。そのため、会議は有効に開催されている。会議結果については、会議録を市のホームページに毎回公開し、市民への周知が積極的に行われている。また、教育機関等との連携では、学校訪問を計画的に行い、必要に応じて改善の手立てを講じている。さらに、教育委員の研修等では、新しい情報や懸案事項等について充実した研修が行われていることがうかがわれる。

2 教育委員会が管理又は執行する事務（教育長に委任できない事務）

「第2期南島原市教育振興基本計画」の目的達成のための指標を立て、小・中学校や各種教育機関の長の任免及び、教職員の人事や進退に係る決定や教育委員会の規則の制定改廃、教育予算等広範囲にわたる業務内容について慎重かつ公正に取り組まれており、「事例なし」以外の点検項目はすべて達成されている。本市教育活性化の基盤となる業務内容であるので、今後とも確実な業務遂行をお願いしたい。

第2 教育委員会事務局の執行事務（教育委員会から教育長が委任されている事務）

1 学校教育の充実

本市の学校教育は「第2期南島原市教育振興基本計画」に明示してあるように、「確かな学力・豊かな心と志・健やかな体」を育むことを目指して、各種施策が一貫して実施されている。

「主体的・対話的で深い学び」の実現は、日々の授業改善を重ねていくことで達成されていくものと考ええる。そのために、教職員の高い専門性や豊かな人間性をもった品格ある教職員の育成のため、教職員「With」の実践的な研修や充実した学校訪問を期待する。各学校における読書環境は、すばらしいものがある。近隣の図書館との連携もよく図られている。児童生徒の読書習慣が生きるための学力と人間力の向上に寄与することができる。

北村西望賞教育美術展・古野賞科学技術展の開催は、本市独自の取組で、美術や科学に対する児童生徒の興味・関心を高めるとともに絵画や彫塑・科学研究物への創作意欲を高めている。今後とも継続して開催してもらいたい。

学校生活・就学支援については、就学前から児童生徒が安心して教育が受けられるように、就学体制がよく整っている。特別に配慮を要する児童生徒に対し、特別支援教育助手の配置、心の教室相談員の配置、適応指導教室の支援など一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細やかな支援が十分なされている。就学が困難な世帯に対して、学用品、修学旅行費、給食費などの援助や多子世帯及び物価高騰の対策として、給食費の支援も行われていて、安心して義務教育が受けられる配慮がなされている。

教育環境の整備として、学校施設は児童生徒が一日の大半を過ごす活動の場であり、非常変災時には地域住民の緊急避難場所として、その安全性の確保は極めて重要である。学

校施設の耐震化工事や整備・改修工事を計画的に行うとともに学校施設の安全点検や防犯カメラの設置、通学路の安全点検など、今後も環境整備に万全の処置をお願いしたい。

学校給食については、新しい給食センターが供用開始して3年が経過し、安定した運営が図られている。児童生徒はもとより保護者、地域住民への食育推進の役割を果たすとともに、安全・安心で美味しい給食が提供できるように一層の努力をお願いしたい。

2 社会教育の推進

学習機会の充実については、特に、公民館講座の内容充実が図られ、一般講座、女性講座など各種公民館講座が開設され、受講者、開催数も多く、役割を考えた事業が実施されている。また、家庭教育講座も目標回数には届いていないが、子育てに関する企画がよくなされている。図書館と幼稚園、保育園、および認定こども園との連携事業では、より確かな読書習慣や情報活用の力を身につけていくために、図書館教室や図書館まつりなど事業の推進が図られている。関係者によるこれまでの取組を評価し、読書サポーターの人材の育成に期待したい。

放課後子ども教室推進事業（寺子屋 21）の教室開催では、子どものニーズに応じた豊かな学びや体験活動に取り組んでいる関係者に、感謝の気持ちでいっぱいである。新しい生活様式のもと放課後教室の拡充を今後とも推進してもらいたい。

文化・芸術の振興では、小学生対象に子ども夢劇場、中学生対象に青少年劇場を開催し、生の舞台芸術を鑑賞する機会を設けていることは大切であり、今後も継続を望む。さらに、多くの市民が開催を期待している芸術文化振興事業は、ミュージカルや文化公演などが開催され、大変好評であった。今後ともぜひ継続していただきたい。

3 スポーツの振興

生涯スポーツの推進については、これまでの競技スポーツに加えて生涯スポーツに対する意欲が一層高まり、市民の体力向上と健康増進に十分応えている。スポーツ協会やスポーツ推進委員会等との連携もよく図られている。特に、部活動の地域移行では、学校体育としての位置づけから地域活動（社会体育）としての位置づけにし、持続可能な活動にする取組は、大いに評価できる。また、各種スポーツ教室についても、本市の美しい自然環境に親しみ、触れ合う機会を提供されていて、目的を明確にして実施が図られている。

スポーツ力の強化については、市民スポーツ大会や第32回原城マラソン大会の祭典が盛大に開催された。人口減の中で、たくさんの参加者があり、関係者の努力に敬意を表したい。

4 文化財の保護と活用

世界文化遺産の構成資産である国指定史跡「原城跡」及び関連資産である国指定史跡「日野江城跡」を後世へ継承するための保存管理と整備が細かく計画的に実施されている。また、国及び県指定の文化財については、県から委嘱された文化財保護指導委員による巡視が定期的実施され、き損等の初期発見に努め、環境保全が行われた。さらに、市ホームページや広報紙にて、指定文化財の情報の提供や史跡の紹介など普及の推進もよく行われている。

原城跡世界遺産センターが令和8年度に供用開始予定であることを受け、物産販売や観光案内の機能を備えた施設が完成していくことに、イメージ図を見て今からワクワクした気持ちになる。原城跡への理解を促進するため、ガイダンス機能の推進を目標に沿って行

ってもらい、観光や物産の振興につなげてもらいたい。また、世界遺産市民協働会議と連携してイベントの実施、周知啓発の活動が世界遺産を活用したまちづくりを推進していることに敬意を表したい。世界遺産の周知・啓発も、市内外の PR を積極的に行っている。市ホームページや広報紙などを活用し、世界遺産に関する企画展やワークショップの情報等の発信や各種イベントなどで、パンフレットやグッズの配布を行った。

これからの原城跡来訪者が年間6万人を超え、南島原市が賑わうことを願ってやまない。

教育委員会の所管事務に係る自己点検・評価（令和6年度）については、施策を細分化し、目標達成に向けて具体的に事業に取り組み、達成度、評価が明確である。関係各位の努力のおかげで、目標を達成している項目が大部分みられる。

教育委員会の各所管課からの説明を聞き、自己評価の結果は妥当であると感じた。これまでの担当者の努力に敬意を表する。今後も南島原市民のためにより一層の努力と創意・工夫がなされることを期待し、所見とする。

令和7年9月1日

荒 木 伸 志

「教育委員会の所管事務に係る自己点検・評価報告書 〔令和6年度事業分〕」についての所見

第1 教育委員会の活動及び管理執行事務

1 教育委員会及び教育委員の活動

今日の全国的な課題である人口減少、少子高齢化の急速な進行、グローバル化の進展や環境問題、また、生成AIの出現やDX化など社会の急激な変化は、本市においても例外ではなく、それらへの対応は喫緊の課題と思われる。

本市教育委員会は、国・県・市の方針を踏まえ、計画の着実な実施に向けて、月に1回の定例会議の開催をはじめ、教育委員会事務局と教育委員、教育委員会と市、あるいは教育機関等との連携を図るなど、きめ細かな活動がなされていることがうかがえる。

さらに、教育関係者や保護者をはじめ広く市民に、計画に掲げた目指す姿や方向性が共感・共有・共創されるよう、内容を分かりやすくまとめたうえで広報紙やホームページ、SNSなど多様な広報媒体を活用しながら、情報発信・広報活動に努め、周知を図られていることは、説明責任を果たすという観点からも努力されていることがわかる。

このような教育委員会の姿勢を高く評価する。

2 教育委員会が管理又は執行する事務（教育長に委任できない事務）

本市教育委員会では、国の第4期教育振興基本計画を参酌しながらも、市において策定された「第Ⅱ期南島原市総合計画（後期基本計画）」との整合性が図られた「第2期南島原市教育振興基本計画」が策定されている。これは、市総合計画のアクションプランとなるものであり、それぞれの施策（Plan）体系ごとに細かな項目を示して点検対象とし、その取組状況（Do）を評価検証（Check）するとともに、目標達成に向けた課題を明確化し次年度以降の取組の方向性を示す（Action）、PDCAサイクルによる計画の適切な推進を図ろうとされている。

これらは、教育行政に係る人事、規則・要綱・条例等の制定・改廃、予算等が伴うため、極めて慎重かつ厳正な職務の遂行が求められる。今後も公正かつ確実な業務遂行をお願いしたい。

第2 教育委員会事務局の執行事務（教育委員会から教育長が委任されている事務）

1 学校教育の充実

南島原市教育委員会は「人間力を育む教育の推進」を掲げて、「市民一人一人が『幸せで悔いのない人生を歩むための“善き人格”を育む』こと」を教育の目的と設定している。このことは、まさに学習指導要領が示す「生きる力」を育むことであり、変化の激しいこれからの社会を生き抜くために必要な「知・徳・体のバランスの取れた力」そのものである。また、努力目標として「確かな学力、豊かな心と志、健やかな体」を育む教育を目指して児童生徒の実態を踏まえた各種施策を設定し、一貫して取り組まれていることもよくわかる。

もう少し具体的に見てみると、全国的に学校現場が抱える課題は多岐にわたる中、本市では取り組むべき様々な課題を、大きくは1「人間力を育む教育の推進」、2「学校生活・就学支援」、3「教育環境の整備」の3つに整理し、それぞれに現状と課題を分析された上

で、具体的な取組を設定されている。

次に達成度や評価の結果を見ると、道徳教育、人権教育、平和教育、読書活動などの心の教育の面においては、県教育庁の指導主事派遣や保護者・関係機関と連携した指導の充実が図られている。また、教育支援、特別支援教育の充実、就学援助など心身に障害のある児童生徒、特別な配慮を要する児童生徒、あるいは、経済的に困難な世帯に対する援助などについても、一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細やかな配慮がなされ、一定の成果が出ている。これらについてはぜひ今後も継続していただきたい。

さらに、学校体育・学校保健、子どもの安全面の教育においても、関係機関との連携を図りながら進められていることが感じられ、その充実が期待できる。

その一方で、教育の目標達成の実現には、その結果に責任が伴う。

その中でも「子どもの学力向上及び学力の保障」は、学校教育の最も重要な責任といえる。教育の本質は、学力テスト等にあらわれる点数結果だけでないことはいうまでもないが、本市では、学力調査の結果等を活用した学力の現状把握・分析・評価・改善・検証という一連の流れを定着させ、教職員研修や研究指定校の指定あるいは学校訪問による指導・支援を継続させてきた結果、一定の成果を上げつつあると思われる。今後とも継続していただきたい。

最後に、教員をめぐる課題であるが、まずは教職員研修を充実し高い専門性と豊かな人間性を持った品格ある教職員の育成に努められていることに敬意を表したい。反面、教職員の働き方改革については、期待と懸念があることを見極め、慎重かつ迅速に実施されることを期待したい。

2 社会教育の推進

社会教育の推進についての説明を受けた時、乳幼児期から高齢期まで人が生涯にわたって学び、学んだことを生かして活力ある地域や社会をつくり、自分も社会も充実したものとなるという、まさに生涯学習の視点で社会教育を推進しようとして感じられた。

また、南島原市は、人・場・歴史と文化・自然が豊かで、それらを市の貴重な財産としていかに魅力を高めるか、あるいは後継者の育成を含め、いかに後世に引き継いでいくかが重要とも感じた。

注目したいのは、公民館講座、地域活性化フォーラム、地域学校協働活動推進事業、芸術文化振興事業である。また、本市の特性を生かしたセミナーヨ現代版画展やアートビレッジ・シラキノ事業、学校教育課管轄ではあるが、ふるさと学習、北村西望賞教育美術展、古野賞科学技術展は市民の心に潤いを与え、そして郷土を誇りに思い、ふるさとを愛する心を育てるものとして今後も継続を望む。

3 スポーツの振興

余暇社会、長寿社会を充実したものにするには、市民が健康で生きがいのある人生を送ることができるよう、行政が支えていくことが必要である。

本市では、市スポーツ協会、市スポーツ推進委員会、TEAM ひまわり、各実行委員会等と連携し、ジュニアからシニアまで生涯を通じた活動に参加できるよう各種イベント等を工夫されている。また、豊かな自然を活用したマリンスポーツの実施やスポーツにおけるDXの推進も時代を考慮した適切な取組といえる。

特筆すべきは、「部活動の地域移行」である。少子化による部員数減少や教員の課題、指

導体制の課題など部活動を取り巻く課題に対し、本市はいち早く国の指針を踏まえた「南島原市部活動の在り方検討委員会」において検討を進め、令和6年度から順次部活動の地域移行を実現している。指導者の確保、移送、保護者の負担の内容、教育活動の一環としての位置づけ、大会出場条件と大会引率等、ひとつひとつの課題を今後も協議・改善していくことによって他市のモデルともなり得るのではと思い、大きな期待をしている。

4 文化財の保護と活用

本市には、地域固有の歴史や伝統を物語る個性豊かな数多くの文化資産があり、それらは県内外にとどまらず、国内外にも誇るべき貴重な財産であるとともに、市の魅力を発信するうえで重要な役割を果たすものである。

世界遺産となった原城跡や日野江城跡といった史跡、各所に点在するキリシタン墓碑、原山支石墓群、旧長崎税関口之津支署庁舎、岩戸山樹叢や各種埋蔵文化財などあげられるだけでも非常に豊富であることがわかる。市ではこれらの「文化財は国民共有の財産である」という理念をもって、これらを適切に保護及び保存し、継承していくために、指定、管理、整備、公有化、発掘調査などを適切に進められている。

また、普及という観点からは、広報紙やホームページなどを活用された情報発信やVRやアプリ、デジタルコンテンツの活用、あるいは国際交流事業などとの連携、各種ワークショップや会議の実施など官民協働による取組が行われている。

一方で、児童生徒の減少に伴い、地域と学校がより一層連携しながら後継者・継承者の育成を更に図っていく必要があるともいえる。

今回、教育委員会の各所管課から詳細かつ丁寧に説明を受けた。

国・県の方針を踏まえながらも、市の総合計画との整合性を図り、豊かな人間性や人としての在り方など、時代を超えても変わることのない価値あるものを大切に残しながら、DXの推進やICT機器の整備など時代や社会の変化に応じた内容や方法を取り入れるなど、常に「不易流行」の姿勢を基調とされた、南島原市の未来を見据えた教育政策の在り方が示されていると感じた。

そして、それぞれの施策体系や項目ごとの進捗状況や達成度及び評価を実施することで説明責任を果たそうとする姿勢は、広く市民や関係機関の協力や理解を得ることができるはずである。これまで南島原市教育委員会が市民のために不断の努力をされてきたことに敬意を払うとともに、今後の関係各位の事業推進に期待して所見とする。

令和7年9月1日

八 木 信 也

自己点検・評価

第1 教育委員会の活動及び管理執行事務

1 教育委員会及び教育委員の活動

(1) 教育委員会会議の運営及び情報発信

点検・評価のコメント及び活動内容等	達成度	評価
① 会議の開催回数 ○ 審議が必要な事項については漏れなく行われており、会議回数も適正であった。定例会を12回〔12回〕(月1回)、臨時会を1回〔0回〕実施した。 教育委員会に提案した議案等は、総数35件〔27件〕あった。	達成	継続
② 広報・広聴活動の状況 ○ 教育委員会の定例会開催の市民への周知は、公告及びホームページを利用して行った。 教育委員会の会議録については、ホームページによる公開を行った。 ・ホームページ公開・・・12回〔12回〕	達成	継続

(2) 教育委員と事務局との連携

点検・評価のコメント及び活動内容等	達成度	評価
○ 教育委員と事務局間において、年間を通じて重要事項となっていることについて、確実に連絡調整を行った。 ○ 教育委員会の議題のうち議案に関しては、教育委員が議案の検討を事前に十分行うことができるよう会議日以前に教育委員へ資料を送付した。 ○ 懸案事項等についても、教育委員会会議の所管事項で報告し、諸問題に係る意見交換や検討・報告を十分に行った。	達成	継続

(3) 教育委員会と市との連携

点検・評価のコメント及び活動内容等	達成度	評価
○ 令和6年度は日程調整がつかず総合教育会議を開催できなかったため、教育委員と市長との意見交換ができなかった。7年度以降は開催時期を見直すとともに、早めに日程調整を行い、会議を開催する必要があることから、達成度は未達成、評価は改善とした。 なお、教育委員会事務局としては、随時、市長部局と情報共有や協議を行い、教育委員会と市との連携を図った。 ・総合教育会議・・・未開催〔1回〕	未達成	改善

(4) 教育機関等との連携

点検・評価のコメント及び活動内容等	達成度	評価
① 学校への訪問 ○ 学校訪問は学校の教育環境の実態を把握し、必要に応じて改善の手立てを講じることが狙いである。原則として3年で全校を訪問することとしており、教育委員会としての責務により、学校訪問を行った。 ・訪問校数・・・小学校4校〔4校〕、中学校3校〔2校〕 ○ 教育委員は、学校訪問の他に研究発表会や中総体激励視察、入学式、運動会などの各種行事にも事務局と連携して出席した。	達成	継続

② その他施設への訪問 ○ 各施設で行われる行事等の開催に合わせて訪問を行った。	達成	継続
---	----	----

(5) 教育委員の研修等

点検・評価のコメント及び活動内容等				達成度	評価
○ 外部研修会等には計画的に参加し、研鑽に努めた。 また、新しい情報や懸案事項等については、その都度、教育委員会の会議の場において議題にするなど、情報の共有化を図った。 〔活動内容〕 教育長・・・ 都市教育長協議会（全国・県）の研究会や長崎県・市町教育委員会連携会議等に参加し、県及び各市町の教育長との情報交換、懸案事例の検証等を行った。 教育委員・・・ 県市町教育委員会合同研修会等の外部研修に参加し、情報交換や研究等研鑽を行った。				達成	継続
区 分	全国対象	九州内対象	県内対象		
参 加 回 数	1 回〔1 回〕	1 回〔1 回〕	7 回〔8 回〕		
参加延べ人数	1 人〔1 人〕	1 人〔4 人〕	12 人〔14 人〕		

(1) 教育行政運営に関する一般方針の決定

(2) 学校その他教育機関の設置又は廃止の決定

(3) 県費負担教職員の懲戒並びに小学校長及び中学校長の任免その他の進退についての内申

(4) 教育次長、課長及びその他の教育機関（小学校及び中学校を除く）の長の任免

(5) 学校その他の教育機関の敷地の選定及び変更の決定

(6) 教育委員会規則の制定又は改廃

(7) 教育予算その他議会の議決を経るべき事件の議案に関する意見

- 18 -

(8) 教育委員会の所管に属する各種委員会の委員の任命又は委嘱

点検・評価のコメント及び活動内容等	達成度	評価
○ 必要な審議については、遅滞なく、漏れなく実施した。 ・委員の任命等議案・・・14件〔8件〕	達成	継続

(9) 教科用図書の採択に関する基本方針の決定

点検・評価のコメント及び活動内容等	達成度	評価
○ 島原・雲仙・南島原地区教科用図書採択協議会において調査審議し、教育委員会で採択することを議決した。 ・令和7年度使用の中学校教科用図書の採択	達成	継続

(10) 学齢児童生徒の就学すべき学校の区域の設定又は変更の決定

点検・評価のコメント及び活動内容等	達成度	評価
○ 事例なし	—	継続

(11) 市文化財の指定又は指定の解除の決定

点検・評価のコメント及び活動内容等	達成度	評価
○ 事例なし	—	継続

(12) 地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項の規定による教育委員会の権限に属する事務についての点検及び評価並びに公表

点検・評価のコメント及び活動内容等	達成度	評価
○ 自己点検及び評価を行い、その報告書を議会へ提出し、ホームページで公表した。 点検及び評価を行うに当たって、検討会議を2回開催し、学識経験者の知見の活用を図ることができた。	達成	継続

第2 教育委員会事務局の執行事務(教育委員会から教育長が委任されている事務)

1 学校教育の充実

1 「人間力」を育む教育の推進

(1) 生きるための学力と人間力の向上

点検・評価のコメント及び活動内容等							達成度	評 価																												
① 主体的・対話的で深い学びの実現							C	継続																												
○ 児童生徒が学びの主体となる「主体的・対話的で深い学び」を実現し、単なる知識や技能の習得ではなく、自分で考え、判断し、表現できる力を育成するために、多くの学校で授業改善に取り組んだ。																																				
② 市学力調査の実施							E	改善																												
○ 児童生徒の学力の現状や課題を、全市的な規模で的確かつ客観的に把握・分析するために市学力調査を実施し、学力向上に関する教育施策の成果と課題を検証し、改善を図った。市学力調査のすべての学年の全ての調査で全国平均以上の正答率の学校数は0校ではあったが、小学校の算数においては、全ての学年が昨年度の標準スコアを上回っており、着実に学力は向上している。学校訪問や教職員研修等を通じて、授業改善についての指導を行い、学力の底上げに努める。																																				
<table><tr><td>指 標</td><td colspan="6">市学力調査のすべての学年の全ての調査で全国平均以上の正答率の学校数</td></tr><tr><td>年 度</td><td>R 5</td><td>R 6</td><td>R 7</td><td>R 8</td><td>R 9</td><td>R 1 0</td></tr><tr><td>目 標</td><td>5校</td><td>6校</td><td>7校</td><td>8校</td><td>9校</td><td>1 0校</td></tr><tr><td>実 績</td><td>0校</td><td>0校</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td></tr></table>							指 標	市学力調査のすべての学年の全ての調査で全国平均以上の正答率の学校数						年 度	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 1 0	目 標	5校	6校	7校	8校	9校	1 0校	実 績	0校	0校	－	－	－	－		
指 標	市学力調査のすべての学年の全ての調査で全国平均以上の正答率の学校数																																			
年 度	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 1 0																														
目 標	5校	6校	7校	8校	9校	1 0校																														
実 績	0校	0校	－	－	－	－																														
③ 外国語教育の推進																																				
○ グローバル化の進展に対応し、広い視野と国際感覚をもった児童生徒を育成するため、外国語指導助手（ALT）を中学校へ、英語指導助手（EAT）を小学校へ派遣し、児童生徒が「生きた英語」に触れられる機会を設け、英語に親しめるように取り組んだ。また、英検及び英検 Jr. 学校版の受験料を全額補助することで、児童生徒の自発的な能力開発や夢の実現に向けた取組を支援することができた。英検の受験者数が少ない学校に対して受験者増加に向けた取組を呼び掛けていく。							D	改善																												
<table><tr><td>指 標</td><td colspan="6">英検及び英検 Jr. 学校版受験者数の割合（小学校）</td></tr><tr><td>年 度</td><td>R 5</td><td>R 6</td><td>R 7</td><td>R 8</td><td>R 9</td><td>R 1 0</td></tr><tr><td>目 標</td><td>4 %</td><td>4 %</td><td>5 %</td><td>6 %</td><td>7 %</td><td>8 %</td></tr><tr><td>実 績</td><td>4 %</td><td>4 %</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td></tr></table>									指 標	英検及び英検 Jr. 学校版受験者数の割合（小学校）						年 度	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 1 0	目 標	4 %	4 %	5 %	6 %	7 %	8 %	実 績	4 %	4 %	－	－	－	－
指 標	英検及び英検 Jr. 学校版受験者数の割合（小学校）																																			
年 度	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 1 0																														
目 標	4 %	4 %	5 %	6 %	7 %	8 %																														
実 績	4 %	4 %	－	－	－	－																														
<table><tr><td>指 標</td><td colspan="6">英検受験者数の割合（中学生）</td></tr><tr><td>年 度</td><td>R 5</td><td>R 6</td><td>R 7</td><td>R 8</td><td>R 9</td><td>R 1 0</td></tr><tr><td>目 標</td><td>3 4 %</td><td>3 6 %</td><td>3 7 %</td><td>3 8 %</td><td>3 9 %</td><td>4 0 %</td></tr><tr><td>実 績</td><td>3 8 %</td><td>2 6 %</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td></tr></table>									指 標	英検受験者数の割合（中学生）						年 度	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 1 0	目 標	3 4 %	3 6 %	3 7 %	3 8 %	3 9 %	4 0 %	実 績	3 8 %	2 6 %	－	－	－	－
指 標	英検受験者数の割合（中学生）																																			
年 度	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 1 0																														
目 標	3 4 %	3 6 %	3 7 %	3 8 %	3 9 %	4 0 %																														
実 績	3 8 %	2 6 %	－	－	－	－																														
<table><tr><td>指 標</td><td colspan="6">英検 3 級以上の英語力を有する生徒の割合（中学校卒業時）</td></tr><tr><td>年 度</td><td>R 5</td><td>R 6</td><td>R 7</td><td>R 8</td><td>R 9</td><td>R 1 0</td></tr><tr><td>目 標</td><td>5 1 %</td><td>5 3 %</td><td>5 5 %</td><td>5 7 %</td><td>5 9 %</td><td>6 0 %</td></tr><tr><td>実 績</td><td>4 6 %</td><td>4 7 %</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td></tr></table>									指 標	英検 3 級以上の英語力を有する生徒の割合（中学校卒業時）						年 度	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 1 0	目 標	5 1 %	5 3 %	5 5 %	5 7 %	5 9 %	6 0 %	実 績	4 6 %	4 7 %	－	－	－	－
指 標	英検 3 級以上の英語力を有する生徒の割合（中学校卒業時）																																			
年 度	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 1 0																														
目 標	5 1 %	5 3 %	5 5 %	5 7 %	5 9 %	6 0 %																														
実 績	4 6 %	4 7 %	－	－	－	－																														

点検・評価のコメント及び活動内容等							達成度	評 価																												
④ 教育 DX の推進 ○ 小・中学校において、授業での学習用端末の活用頻度も増えるとともに、家庭への持ち帰りも全ての小・中学校で実践できた。長期休業中においても宿題の配付など積極的に活用した。課題としては教師の I C T活用能力に活用頻度が左右されるのではなく、すべての教師が授業の中で I C T機器を効果的に活用する場面を設定できるようにする必要がある。そのための研修を計画的に実施していく。							E	改善																												
<table><tr><td>指 標</td><td colspan="6">ICT 機器を活用した学習をほぼ毎日している児童の割合</td></tr><tr><td>年 度</td><td>R 5</td><td>R 6</td><td>R 7</td><td>R 8</td><td>R 9</td><td>R 1 0</td></tr><tr><td>目 標</td><td>2 0 %</td><td>4 5 %</td><td>6 5 %</td><td>8 0 %</td><td>9 0 %</td><td>1 0 0 %</td></tr><tr><td>実 績</td><td>1 3 %</td><td>1 6 %</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr></table>									指 標	ICT 機器を活用した学習をほぼ毎日している児童の割合						年 度	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 1 0	目 標	2 0 %	4 5 %	6 5 %	8 0 %	9 0 %	1 0 0 %	実 績	1 3 %	1 6 %	—	—	—	—
指 標	ICT 機器を活用した学習をほぼ毎日している児童の割合																																			
年 度	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 1 0																														
目 標	2 0 %	4 5 %	6 5 %	8 0 %	9 0 %	1 0 0 %																														
実 績	1 3 %	1 6 %	—	—	—	—																														
<table><tr><td>指 標</td><td colspan="6">ICT 機器を活用した学習をほぼ毎日している生徒の割合</td></tr><tr><td>年 度</td><td>R 5</td><td>R 6</td><td>R 7</td><td>R 8</td><td>R 9</td><td>R 1 0</td></tr><tr><td>目 標</td><td>2 0 %</td><td>4 5 %</td><td>6 5 %</td><td>8 0 %</td><td>9 0 %</td><td>1 0 0 %</td></tr><tr><td>実 績</td><td>1 3 %</td><td>2 0 %</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr></table>									指 標	ICT 機器を活用した学習をほぼ毎日している生徒の割合						年 度	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 1 0	目 標	2 0 %	4 5 %	6 5 %	8 0 %	9 0 %	1 0 0 %	実 績	1 3 %	2 0 %	—	—	—	—
指 標	ICT 機器を活用した学習をほぼ毎日している生徒の割合																																			
年 度	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 1 0																														
目 標	2 0 %	4 5 %	6 5 %	8 0 %	9 0 %	1 0 0 %																														
実 績	1 3 %	2 0 %	—	—	—	—																														
⑤ 道徳教育 ○ 道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を培うため、「特別の教科 道徳」の指導の充実を図るとともに、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人が自分自身の問題と捉え、向き合う「考え、議論する」道徳教育を実践した。 また、長崎県教育庁義務教育課による道徳教育推進に係る指導主事派遣事業も活用し、道徳教育及び道徳科に係る指導内容・方法等の改善に係る協議等を通して、道徳教育の充実を図った。																																				
⑥ 人権教育の推進 ○ 各学校においては、児童生徒の発達の段階を踏まえ、同和問題をはじめとするあらゆる人権問題の解決を図るための教育を推進するとともに、インターネットやSNSなどによるいじめなどの多様な課題も含めた人権侵害の実態把握に努め、保護者や関係機関と連携した改善対策を推進した。																																				
⑦ 平和教育 ○ 児童生徒の発達の段階や地域の実態を踏まえ、学校における全ての教育活動を通して、平和で民主的な社会の形成者として必要な資質と実践的態度を育成した。 各学校では、8月9日の「長崎原爆の日」に平和集会を開催し、平和に関する発表や平和宣言などを行うなど、平和教育の充実を図った。																																				
⑧ キャリア教育 ○ 将来の夢や目標を持って主体的に自己の進路を選択できる能力を身に付けられるよう、発達の段階に応じたキャリア教育に取り組んだ。小中連携の一環としてキャリアパスポートの有効活用を図り、キャリア教育の充実に努めていく。																																				
<table><tr><td>指 標</td><td colspan="6">将来の夢を持っている児童の割合</td></tr><tr><td>年 度</td><td>R 5</td><td>R 6</td><td>R 7</td><td>R 8</td><td>R 9</td><td>R 1 0</td></tr><tr><td>目 標</td><td>7 0 %</td><td>7 5 %</td><td>8 0 %</td><td>8 5 %</td><td>9 0 %</td><td>9 0 %</td></tr><tr><td>実 績</td><td>6 5 %</td><td>6 0 %</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr></table>							指 標	将来の夢を持っている児童の割合						年 度	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 1 0	目 標	7 0 %	7 5 %	8 0 %	8 5 %	9 0 %	9 0 %	実 績	6 5 %	6 0 %	—	—	—	—		
指 標	将来の夢を持っている児童の割合																																			
年 度	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 1 0																														
目 標	7 0 %	7 5 %	8 0 %	8 5 %	9 0 %	9 0 %																														
実 績	6 5 %	6 0 %	—	—	—	—																														
<table><tr><td>指 標</td><td colspan="6">将来の夢を持っている生徒の割合</td></tr><tr><td>年 度</td><td>R 5</td><td>R 6</td><td>R 7</td><td>R 8</td><td>R 9</td><td>R 1 0</td></tr><tr><td>目 標</td><td>6 0 %</td><td>6 5 %</td><td>7 0 %</td><td>7 5 %</td><td>8 0 %</td><td>8 0 %</td></tr><tr><td>実 績</td><td>4 0 %</td><td>4 2 %</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr></table>							指 標	将来の夢を持っている生徒の割合						年 度	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 1 0	目 標	6 0 %	6 5 %	7 0 %	7 5 %	8 0 %	8 0 %	実 績	4 0 %	4 2 %	—	—	—	—		
指 標	将来の夢を持っている生徒の割合																																			
年 度	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 1 0																														
目 標	6 0 %	6 5 %	7 0 %	7 5 %	8 0 %	8 0 %																														
実 績	4 0 %	4 2 %	—	—	—	—																														

点検・評価のコメント及び活動内容等							達成度	評価
⑨ 読書活動 ○ 小・中学校へ近隣の市立図書館から職員を週1回派遣し、本の整理や貸し出しの補助など、学校図書館の充実に取り組んだ。児童生徒の要望に応じた図書や豊かな心を育てるための図書の計画的な購入に努めた。							B	継続
⑩ 校種間の円滑な接続 ○ 幼保小連携を推進し、幼児期における遊びを通して培った主体性などの資質・能力を小学校以降の教育にしっかりと引き継ぐこと、今後更に遊びを中心とした幼稚園や保育園などの生活から教科学習が中心となる小学校の生活への円滑な接続を図ることができるように、1月末に、幼保小代表者合同研修会を開催した。 教育課程に関する連携までには至っていない。 ○ 教育課程に関する小・中連携については、ふるさと教育の推進により、小・中学校が互いの教育課程を開き合い、9年間を見通した教育課程を編成した小・中学校がある。今後、このような取組を全小・中学校に広げていく必要がある。							B	継続
指 標	教育課程に関する幼保小連携の実施校数（小学校）							
年 度	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10		
目 標	3校	4校	5校	7校	10校	13校		
実 績	3校	4校	—	—	—	—		
指 標	教育課程に関する小・中連携の実施校数（小・中学校）							
年 度	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10		
目 標	11校	12校	13校	15校	18校	21校		
実 績	10校	13校	—	—	—	—		
⑪ 学校給食を通じた食育の推進 ○ 栄養教諭、学校栄養職員が、市内全小・中学校を給食時間に訪問し、食育指導を行った。また、全国学校給食週間には、各学校給食集会を開催するなどして、地場産物や生産者について認識したり、食への感謝の気持ちを高めたりすることができた。							B	継続

（2）学校体育・学校保健の充実

点検・評価のコメント及び活動内容等							達成度	評価
① 体力・運動能力調査の実施 ○ すべての小・中学校で、体力・運動能力調査を実施した。 小・中学校ともに、全国平均と比べて上回っている種目もあるが、筋持久力と柔軟性を計測する種目ではほとんどの学年が平均を下回る結果となった。体力向上アクションプランの充実を図る必要がある。							B	継続
② 体力向上支援事業等の活用 ○ 県が実施する小学校を対象とした「体育学習サポーター事業」に3校が応募し、水泳や器械運動の授業で活用した。 「体育学習アドバイザー事業」「元気アップファミリープラン」の活用はなかったもので、次年度は広く周知し、活用を促進する必要がある。							D	改善
指 標	県主催体力向上支援事業等の活用学校数							
年 度	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10		
目 標	5校	6校	7校	8校	9校	10校		
実 績	2校	3校	—	—	—	—		

③ 中学校総合体育大会の推進	A	継続																												
○ 令和6年度も大きな事故等もなく、中体連が掲げる「感謝」「マナー」「勝負」のスローガンのもと、実施することができ、生徒の健全育成に寄与することができた。 その結果、全国陸上競技大会に1名、九州陸上大会に2名、九州ソフトボール大会に1名出場した。さらに、県中学校新人バレーボール大会で本市、女子バレーボール部が準優勝し、九州バレーボール選抜優勝大会に出場した。																														
④ 部活動の地域移行	A	継続																												
○ 部活動の受け皿として、新たな地域クラブが4クラブ設立された。また、拠点校部活動を実施し、生徒の活動場所までの移送サービスを開始し、39名の生徒が利用した。地域展開への理解を得るための周知活動を行っているが、今後も継続して実施し、市民が生涯にわたって豊かなスポーツ・文化活動に親しめる環境を整えていく。																														
<table><tr><td>指 標</td><td colspan="6">部活動の地域移行の割合</td></tr><tr><td>年 度</td><td>R 5</td><td>R 6</td><td>R 7</td><td>R 8</td><td>R 9</td><td>R 10</td></tr><tr><td>目 標</td><td>0 %</td><td>2 0 %</td><td>3 0 %</td><td>1 0 0 %</td><td>1 0 0 %</td><td>1 0 0 %</td></tr><tr><td>実 績</td><td>—</td><td>3 8 %</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr></table>			指 標	部活動の地域移行の割合						年 度	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	目 標	0 %	2 0 %	3 0 %	1 0 0 %	1 0 0 %	1 0 0 %	実 績	—	3 8 %	—	—	—	—
指 標	部活動の地域移行の割合																													
年 度	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10																								
目 標	0 %	2 0 %	3 0 %	1 0 0 %	1 0 0 %	1 0 0 %																								
実 績	—	3 8 %	—	—	—	—																								
⑤ 感染症への対応	A	継続																												
○ 小・中学校における感染症対策は各学校の実態に応じて継続して取り組まれており、令和5年度に比べて臨時休業等の数は激減した。 ・令和6年度臨時休業等の実施した学校 小学校 7校、中学校1校 ・令和5年度臨時休業等を実施した学校 小学校11校、中学校8校																														
⑥ 性教育の充実	B	継続																												
○ 令和6年度は、西有家中学校において、産婦人科医磯野氏を講師として性教育講話を実施した。本市では、令和3年度から長崎県学校保健専門医派遣事業を活用し、令和7年度までの5か年で、市内8中学校で専門医による性教育を計画し、実施している。令和7年度は、口之津中学校が実施対象校である。																														
⑦ 学校保健会との連携	B	継続																												
○ 長崎県健康教育研究協議会を雲仙市・島原市・南島原市が主管として開催した。参加者も300名を超え、実りある研究大会となった。コロナ禍で実施できなくなっていた学校保健委員会を再開する学校も増加し、児童生徒の健康の保持増進に寄与する活動の充実が期待できる。																														

(3) 地域に根ざした教育の推進

点検・評価のコメント及び活動内容等							達成度	評価							
① ふるさと学習（郷土学習） ○ 口之津小・中学校では、令和5・6年度の2年間、長崎県の指定を受けふるさと教育の研究に取り組んだ。令和6年10月には2年間の成果を発表し、ふるさとのよさを学び、ふるさとを誇りに思い、ふるさとを愛する子供たちの姿を広く県下に示した。							B	継続							
									指標 「ふるさと学習連携カリキュラム」の作成・実践校数（小・中学校）						
									年度	R5	R6	R7	R8	R9	R10
									目標	2校	4校	8校	16校	21校	21校
									実績	2校	4校	—	—	—	—
② 北村西望賞教育美術展の実施 ○ 本市の出身で名誉市民である北村西望氏の功績を称え、本市小・中学校の美術教育の振興を図ることを目的として開催した。 11月15日(金)～17日(日)に展覧会を開催し、17日には表彰式を開催した。							A	継続							

・北村西望賞教育美術展入賞数 総出品数点 4 9 4 点〔4 6 1 点〕 西望賞・・・小学生 4 点、中学生 2 点〔小学生 4 点、中学生 2 点〕 優秀賞・・・小学生 1 2 点、中学生 6 点〔小学生 1 2 点、中学生 6 点〕 特 選・・・小学生 6 0 点、中学生 2 0 点〔小学生 6 0 点、中学生 2 0 点〕								
指 標	北村西望賞教育美術展の出展の割合							
年 度	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 1 0		
目 標	4 7 %	4 9 %	5 1 %	5 3 %	5 4 %	5 5 %		
実 績	5 0 %	5 4 %	—	—	—	—		
③ 古野賞科学技術展の実施 ○ 本市の出身で名誉市民である古野清孝氏、古野清賢氏兄弟の功績を称え、本市小・中学校の科学技術教育の振興を図ることを目的として開催した。 1 1 月 1 5 日(金)～1 7 日(日)に展覧会を開催し、1 7 日には表彰式を開催した。 次年度の出品数を増やすため、市校長会などを通じて学校に出品を呼び掛けていく。 ・古野賞科学技術展入賞数 総出品数 1 0 2 点〔9 8 点〕 古野賞・・・小学生 1 点、中学生 1 点〔小学生 1 点、中学生 1 点〕 優秀賞・・・小学生 2 点、中学生 1 点〔小学生 2 点、中学生 1 点〕 特 選・・・小学生 6 点、中学生 3 点〔小学生 6 点、中学生 3 点〕							D	改善
指 標	古野賞科学技術展の出展の割合							
年 度	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 1 0		
目 標	7 1 %	7 3 %	7 5 %	7 7 %	7 8 %	8 0 %		
実 績	5 8 %	6 0 %	—	—	—	—		
④ コミュニティ・スクール（学校運営協議会）の設置 ○ 令和 6 年度は、布津小学校、飯野小学校、布津中学校を対象学校として、布津地区に学校運営協議会を設置した。また、西有家小学校、西有家中学校の 2 校を対象学校として、西有家地区に学校運営協議会準備検討委員会を設置した。 ※地域学校協働活動本部設置地区 3 地区〔2 地区〕							A	継続
指 標	学校運営協議会を設置した学校数							
年 度	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 1 0		
目 標	2 校	4 校	6 校	8 校	1 0 校	1 2 校		
実 績	4 校	7 校	—	—	—	—		
⑤ 「普賢岳噴火災害を語り継ぐ日（9 月 1 5 日）」の実施 ○ 大野木場小学校では 9 月 1 5 日をメモリアルデーとして、ふるさとの方々の思いや復興までの努力について学び、防災に対する意識を高めた。他の小・中学校でもその日を「普賢岳災害を語り継ぐ日」として噴火災害を語り継ぐ取組を行った。							C	継続

（４）教職員・指導者の育成

点検・評価のコメント及び活動内容等							達成度	評 価
① 教職員研修 ○ 「南島原市の教育の在り方」の実現を目指して、本市における喫緊の教育課題や教職員のニーズに応じた実践的な研修を行うことで、高い専門性と豊かな人間性をもった品格ある教職員を育成し、学校力の向上を図ることをねらいとしている。学力向上、授業改善、特別支援教育等をテーマとした研修を計画し、すべて実施した。 ・実施内容 開設講座の種類・・・5 種類〔5 種類〕 実施講座数・・・・・・9 講座〔1 0 講座〕 受講対象者・・・・・・全教職員							B	継続

点検・評価のコメント及び活動内容等	達成度	評 価
・ 講座終了後のアンケート結果（ねらいに基づく構成や運営がなされたか。） よかった・・・ 76.7%〔72.1%〕 ややよかった・・・ 20.6%〔26.0%〕 やや悪かった・・・ 2.3%〔1.9%〕 悪かった・・・ 0.3%〔0.5%〕		
② 学校訪問 ○ 学校訪問は学校の教育環境の実態を把握し、必要に応じて改善の手立てを講じることをねらいとしている。原則として3年で全校を訪問することとしており、学校経営方針の着実な具現化に向けて、指導助言を行った。 ・ 訪問校数・・・小学校4校〔4校〕、中学校3校〔2校〕	B	継続
③ 研究指定 ○ 「生きるための学力と人間力の向上」をテーマに、先進的な研究を行った。 ・ 指定期間・・・2年間（研究の内容等により延長も可） ・ 指定校・・・小林小学校（令和5～令和6年度） ・・・有馬小学校（令和6～令和7年度） ・・・有家中学校（令和6～令和8年度） ・ 研究費・・・指定校に研究費として年間10万円の市費助成を行った。 ・ 研究実績 研究発表会の開催 小林小学校・・・11月15日（金）2年次 本発表	B	継続
④ 学校支援共同実施連絡協議会 ○ 学校支援共同実施室の円滑な運営と整備、充実を図るため、南島原市学校支援共同実施室組織運営規程に基づき2回開催し、学校における事務処理の効率化と学校運営に関する支援を行った。 開催期日・・・5月23日（木）、2月7日（金） 開催場所・・・南有馬庁舎大会議室	B	継続
⑤ 学校支援員の配置 ○ 小・中学校の教育活動に際し、教職員の業務支援を行うことにより、教職員がより児童生徒への指導や教材研究等に尽力できるようにするために配置しており、教職員の負担軽減が図られ、個に応じた指導や教員の働き方改革の推進に寄与した。 ・ 配置状況 配置人数・・・21人〔21人〕 配置学校数・・・21校〔21校〕 ・ 年間勤務日数・・・190日	B	継続

2 学校生活・就学支援

（1）学校生活の支援

点検・評価のコメント及び活動内容等	達成度	評 価
① 就学相談の実施 ○ 幼児の小学校入学、児童生徒の進級・進学にあたり、保護者との面談や幼児及び児童生徒の状況把握を通して、保護者の不安や悩みに寄り添うとともに、適切な教育的支援について話し合いを行った。 ・ 開催期日・・・8月27日（火）、28日（水）、29日（木） （28日、29日は台風接近のため9月に実施した）	B	継続

点検・評価のコメント及び活動内容等							達成度	評 価
・ 開催場所・・・西有家総合学習センター ・ 相談者数・・・42人〔41人〕								
② 就学時健康診断の実施 ○ 令和6年度は、市内8地区を3つのブロック（加津佐・ロ之津・南有馬・北有馬、西有家・有家、布津・深江）に分けて就学時健康診断を実施した。南高医師会や各学校との連携を図り、目的を達成することができた。 ・ 開催期日・・・10月17日（木）、10月24日（木）、11月6日（水）							B	継続
③ 教育支援委員会の設置 ○ 心身に障がいのある児童生徒（就学前の幼児を含む）に対し、それぞれの能力に応じた教育が受けられるよう、その判定と就学支援の適正を期して、教育委員会の諮問に応じて、その結果を答申し、適切な就学支援を行った。 ・ 開催期日・・・7月10日(水)、11月13日(水) ・ 開催場所・・・南有馬庁舎中会議室 ・ 出席者・・・教育支援委員13人、教育長他4人、計17人 ・ 審議件数・・・128件〔104件〕							B	継続
④ 特別支援教育助手の配置 ○ 特別な配慮を要する児童生徒に対し、一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細やかな指導ができるように配置した。 特別支援教育助手の配置によって、児童生徒の状況に応じた学習指導、生徒指導及び生活指導、進路指導等への適切な支援ができた。 ・ 配置学校数・・・21校〔21校〕 （16校は2人配置、3校は3人配置、2校は1人配置） ・ 年間勤務日数・・・152日							B	継続
指 標	特別支援教育助手配置数							
年 度	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 1 0		
目 標	43人	43人	43人	43人	43人	43人		
実 績	41人	43人	－	－	－	－		
⑤ コーディネーター研修会の実施 ○ 各学校の校内委員会の推進役であり、専門機関や保護者との連絡・調整役でもある特別支援教育コーディネーターの資質の向上を図るため研修会を実施した。 特別支援学級に在籍する児童生徒の将来における就労へ向けて、小・中学校で身に付けるべき資質や能力などをキャリア教育の観点から学び、円滑な進路指導につなげることができた。							B	継続
⑥ 心の教室相談員の配置 ○ 心の教室相談員は、悩み等を持つ児童生徒の相談を専門的に受けたり、ストレスを和らげたりすることができる第三者的な存在であり、校内における相談体制を整えるために配置した。今後は、研修会を充実し、心の教室相談員の資質向上に努め、不登校児童生徒の減少に繋げる。 ・ 配置人数・・・11人 ・ 年間勤務日数・・・140日							D	改善
指 標	不登校児童生徒割合							
年 度	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 1 0		
目 標	1.6%	1.4%	1.2%	1.0%	0.9%	0.8%		
実 績	1.90%	1.77%	－	－	－	－		

点検・評価のコメント及び活動内容等	達成度	評 価
⑦ 南島原市適応指導教室（つばさ）の運営 ○ 適応指導教室（つばさ）には3人の指導員を配置し、不登校児童生徒への支援を行った。児童生徒の通室は5名と少なかったが、指導員が学校を訪問し、別室登校をしている児童の支援を行い、教室に復帰させることができた。 不登校児童生徒数については、小・中学校ともに横ばい状態にあり、設定目標に達しておらず、心の教室相談員との連携を更に深めていく必要がある。 ・不登校児童生徒数 小学校・・・ 11人（全体の0.61%）〔17人（全体の0.89%）〕 中学校・・・ 38人（全体の3.96%）〔38人（全体の3.86%）〕 計・・・ 49人（全体の1.77%）〔55人（全体の1.91%）〕	C	継続
⑧ スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの配置 ○ 県教育委員会が任用するスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを小・中学校に配置及び派遣することで、児童生徒、保護者、教職員の悩みの解決やストレスの軽減に効果があった。	C	継続

（2）就学への支援

点検・評価のコメント及び活動内容等	達成度	評 価
① 就学援助 ○ 経済的な理由により市内の小・中学校に就学させることが困難な世帯に対し、学用品費、修学旅行費、校外活動費、給食費などの援助を行うことで、就学の支援を行った。 ・令和6年度 就学援助受給者数 小学校・・・295人〔325人〕 中学校・・・185人〔179人〕	B	継続
② 遠距離通学支援 ○ 小学校の統合（分校の本校併合を含む）により遠距離通学となる児童の負担軽減と安全管理を図るためスクールバスを利用できるものとした。 ○ 公共交通機関を利用して遠距離通学をする児童生徒の保護者の負担軽減を図るため、公共交通機関の定期券の購入に要する費用の一部を補助金として交付した。 ・令和6年度 補助金交付人数 17人〔25人〕	B	継続
③ 給食費の補助 ○ 多子世帯及び物価高騰対策として給食費の支援を行った。 ・学校給食費保護者負担軽減補助金 補助額10,268,333円 〔10,019,080円〕 対象：第3子目以降 216名〔222人〕 ・学校給食会原油価格・物価高騰対策費補助金 補助額5,776,815円 〔19,997,368円〕 食材費高騰による給食費の値上げ相当分のうち半額を上限として補助	B	継続

(3) 高等学校教育・高等教育への支援

点検・評価のコメント及び活動内容等						達成度	評 価
① 奨学資金貸付金 ○ 学習意欲に富み、優れた資質を持ちながら、経済的理由により就学が困難である学生に対して奨学資金を無利子で貸与し、就学の支援を行った。 ・令和6年度 奨学資金貸付者82人（うち新規27人）〔73人（うち30人）〕 貸付額4,298万円〔3,762万円〕						B	継続
② 奨学資金償還補助金 ○ 若者の定住促進を図るため、本市の奨学資金を借りて学校を卒業した後、市内に居住し、就労しているなどの条件を満たした人に対して、償還した奨学金の3分の2以内の金額を補助金として交付した。 ・令和6年度 補助金交付者33人〔30人〕 交付額4,240,344円〔3,241,934円〕						A	継続
指 標	奨学資金償還補助金						
年 度	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	
目 標	7人	7人	7人	7人	7人	7人	
実 績	10人	8人	—	—	—	—	

3 教育環境の整備

(1) 適正規模・適正配置の推進

点検・評価のコメント及び活動内容等						達成度	評 価
① 適正規模・適正配置事業 ○ 小学校においては、これまでの統合により、一定の成果を得ているが、今後も、複式学級の解消を優先に中学校も含めた適正規模・適正配置について継続した取り組みを行っていく。 令和6年度は、令和5年度に行ったアンケート結果等を参考に、教育委員会内部で座談会を開くなど内部での検討を行った。						C	継続

(2) 学校施設の充実

点検・評価のコメント及び活動内容等						達成度	評 価
① 学校施設の耐震化工事 ○ 学校施設は児童生徒が一日の大半を過ごす活動の場であり、非常変災時には地域住民の緊急避難場所として、今後は市と更なる連携をして整備を行っていく必要があり、その安全性の確保は極めて重要である。 校舎及び体育館の耐震補強工事は平成26年度で終了したが、学校施設の更なる安全性向上を図るため、小学校3件・中学校1件の非構造部材耐震化改修工事を実施した。 今後も、小・中学校の非構造部材耐震化改修工事を計画的に進めていく予定である。 小学校の非構造部材耐震化改修工事・・・3件						B	継続
工 事 名 称		工事費（円）					
加津佐小学校校舎内部建具改修工事（1期）		34,501,122					
加津佐小学校校舎外壁等改修工事		139,150,000					
小林小学校校舎外壁等改修工事		50,514,200					
小 計		224,165,322					

点検・評価のコメント及び活動内容等		達成度	評 価										
中学校の非構造部材耐震化改修工事・・・1件													
<table><tr><th>工 事 名 称</th><th>工事費（円）</th></tr><tr><td>南有馬中学校校舎内部建具改修工事（2期）</td><td>55,596,200</td></tr><tr><td>小 計</td><td>55,596,200</td></tr></table>		工 事 名 称	工事費（円）	南有馬中学校校舎内部建具改修工事（2期）	55,596,200	小 計	55,596,200						
工 事 名 称	工事費（円）												
南有馬中学校校舎内部建具改修工事（2期）	55,596,200												
小 計	55,596,200												
<table><tr><td>合 計</td><td>279,761,522</td></tr></table>		合 計	279,761,522										
合 計	279,761,522												
② 学校施設整備・改修事業													
○ 小・中学校施設及び設備の老朽化等に伴い、下記施設の整備改修工事を行った。 令和6年度は、小学校施設の整備改修工事3件、中学校施設の整備改修工事3件の計6件を実施した。													
小学校施設の整備改修工事・・・計3件													
<table><tr><th>工 事 名 称</th><th>工事費（円）</th></tr><tr><td>加津佐小学校校舎照明 LED 改修工事</td><td>6,132,878</td></tr><tr><td>野田小学校屋内運動場屋根防水改修工事</td><td>16,748,600</td></tr><tr><td>西有家小学校校舎トイレ改修工事</td><td>76,395,000</td></tr><tr><td>小 計</td><td>99,276,478</td></tr></table>		工 事 名 称	工事費（円）	加津佐小学校校舎照明 LED 改修工事	6,132,878	野田小学校屋内運動場屋根防水改修工事	16,748,600	西有家小学校校舎トイレ改修工事	76,395,000	小 計	99,276,478	B	継続
工 事 名 称	工事費（円）												
加津佐小学校校舎照明 LED 改修工事	6,132,878												
野田小学校屋内運動場屋根防水改修工事	16,748,600												
西有家小学校校舎トイレ改修工事	76,395,000												
小 計	99,276,478												
中学校施設の整備改修工事・・・計3件													
<table><tr><th>工 事 名 称</th><th>工事費（円）</th></tr><tr><td>加津佐中学校校舎屋根防水改修工事</td><td>34,320,000</td></tr><tr><td>有家中学校屋内運動場屋根防水改修工事（R5 繰）</td><td>39,333,800</td></tr><tr><td>布津中学校塔屋部等防水改修工事（R5 繰）</td><td>16,500,000</td></tr><tr><td>小 計</td><td>90,153,800</td></tr></table>		工 事 名 称	工事費（円）	加津佐中学校校舎屋根防水改修工事	34,320,000	有家中学校屋内運動場屋根防水改修工事（R5 繰）	39,333,800	布津中学校塔屋部等防水改修工事（R5 繰）	16,500,000	小 計	90,153,800		
工 事 名 称	工事費（円）												
加津佐中学校校舎屋根防水改修工事	34,320,000												
有家中学校屋内運動場屋根防水改修工事（R5 繰）	39,333,800												
布津中学校塔屋部等防水改修工事（R5 繰）	16,500,000												
小 計	90,153,800												
<table><tr><td>合 計</td><td>189,430,278</td></tr></table>		合 計	189,430,278										
合 計	189,430,278												
③ ICT 機器活用環境の整備													
○ 国が示すK P I の指標として「教師へ学習用端末一人一台整備」について100％整備した。													
また、G I G Aスクール構想第2期に向け「南島原市ネットワーク整備計画」「南島原市学習用端末の利活用に係る計画」「南島原市校務D X計画」「南島原市端末整備更新計画」を策定した。		C	継続										
令和7年度は学習用端末の更新のため、円滑な更新ができるようにする。													
④ 学校給食センターの円滑な運営													
○ 学校給食センター供用開始3年が経過し、調理業務や配送作業等も確立され、安定した運営が出来ている。また、給食センターの見学や試食の受入れを行い、児童や保護者、地域住民へ食育の推進を担う役割を果たしている。		B	継続										
アレルギー対応（代替食）については、当初、卵のみの対応だったが、令和5年9月からは、えび・かに・いか及び種実類の代替食も提供可能とした。													
・施設見学 16件（延べ402人）〔10件（167人）〕													

(3) 子どもたちの安全確保

点検・評価のコメント及び活動内容等							達成度	評 価																																				
① 学校施設安全点検 ○ 5月下旬から6月上旬にかけて、各学校の修繕個所の確認と合わせて安全点検を実施した。 また、日々の日常点検について、各学校において点検を行っており、異常があった場合は報告を頂くこととなっている。							B	継続																																				
② 防犯カメラの設置 ○ 防犯カメラについて、学校施設環境改善交付金を活用し令和6年度に中学校2校を先行し設置を行った。未設置の学校についても学校施設改善交付金の申請を行っており、国庫補助の採択がされた場合に令和7年度設置を計画している。 中学校施設の設置工事・・・2件 <table><tr><th>工 事 名 称</th><th>工事費（円）</th></tr><tr><td>南有馬中学校防犯カメラ設置工事</td><td>4,090,900</td></tr><tr><td>深江中学校防犯カメラ設置工事</td><td>5,324,000</td></tr><tr><td>小 計</td><td>9,414,900</td></tr></table> <table><tr><th>指 標</th><th colspan="6">防犯カメラ設置校数</th></tr><tr><th>年 度</th><th>R 5</th><th>R 6</th><th>R 7</th><th>R 8</th><th>R 9</th><th>R 1 0</th></tr><tr><th>目 標</th><td>—</td><td>6校</td><td>2 1 校</td><td>2 1 校</td><td>2 1 校</td><td>2 1 校</td></tr><tr><th>実 績</th><td>4 校</td><td>6 校</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr></table>							工 事 名 称	工事費（円）	南有馬中学校防犯カメラ設置工事	4,090,900	深江中学校防犯カメラ設置工事	5,324,000	小 計	9,414,900	指 標	防犯カメラ設置校数						年 度	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 1 0	目 標	—	6校	2 1 校	2 1 校	2 1 校	2 1 校	実 績	4 校	6 校	—	—	—	—	B	継続
工 事 名 称	工事費（円）																																											
南有馬中学校防犯カメラ設置工事	4,090,900																																											
深江中学校防犯カメラ設置工事	5,324,000																																											
小 計	9,414,900																																											
指 標	防犯カメラ設置校数																																											
年 度	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 1 0																																						
目 標	—	6校	2 1 校	2 1 校	2 1 校	2 1 校																																						
実 績	4 校	6 校	—	—	—	—																																						
③ 通学路の安全点検の実施 ○ 「南島原市通学路交通安全プログラム」に基づき、北有馬・南有馬地区において、学校及び関係機関とともに通学路の安全点検を実施し、児童生徒が安全に通学できるよう通学路の安全確保に努めた。							B	継続																																				

2 社会教育の推進

1 学習機会の充実

(1) 学びの場の提供

点検・評価のコメント及び活動内容等							達成度	評 価																										
① 公民館講座 ○ 公民館講座等の学習活動の機会と内容の充実を図るとともに、学習の成果を社会に還元できるような環境の整備に努めた。また、各地区での一般講座、女性講座、歴史講座、防災講座等の地域課題に即した講座や人づくり・地域づくりにつながる学習会、自治公民館などとの連携事業を企画し、公民館本来の役割を考えた事業の実施に努めた。 ・ 各種公民館講座の開設 一般講座、女性講座、歴史講座、防災講座、高齢者学級 162教室〔162教室〕 受講者数 延べ 5,342人〔5,433人〕							A	継続																										
<table><tr><th>指 標</th><th colspan="6">公民館講座・高齢者学級の開催数</th></tr><tr><th>年 度</th><th>R 5</th><th>R 6</th><th>R 7</th><th>R 8</th><th>R 9</th><th>R 10</th></tr><tr><th>目 標</th><td>130回</td><td>130回</td><td>130回</td><td>130回</td><td>130回</td><td>130回</td></tr><tr><th>実 績</th><td>233回</td><td>208回</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td></tr></table>									指 標	公民館講座・高齢者学級の開催数						年 度	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	目 標	130回	130回	130回	130回	130回	130回	実 績	233回	208回	－	－
指 標	公民館講座・高齢者学級の開催数																																	
年 度	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10																												
目 標	130回	130回	130回	130回	130回	130回																												
実 績	233回	208回	－	－	－	－																												
② 家庭教育支援の充実 ○ 子育てに関心が高い父母等に、乳幼児期から学びの機会創出を図るため、親育ち講座などの講座を実施するほか、家庭教育支援施設「わくわく広場」や公民館、図書館の積極的な活用に努めた。また、家庭教育（子育てサロン）講演会も実施した。 令和6年度の目標には届かなかったが、今後は対象者を見据えたうえで実施方法等の改善を図っていく。 ・ 家庭教育学級 46講座〔49講座〕 延べ受講者166人〔308人〕 親育ち講座 6講座 66人 はじめのいっぽ講座 24講座 48人 には・さんぽ講座 16講座 52人 ・ 家庭教育講演会の実施（7月27日） 来場者数 191人〔333人〕 ・ 子育てサロン講演会の実施（9月14日） 来場者数 71人〔13人〕 ○ 家庭教育支援プログラムなどを活用した「子育て講座（わくわく広場）」を開催した。また、家庭教育支援員による子育て相談や情報提供などの「子育て支援」をありえコレジヨホールで定期的の実施した。 ・ わくわく広場における講座 32講座〔31講座〕 受講者数271人〔220人〕 （家庭教育支援プログラム、おはなし会ほか） ・ 情報提供及び相談支援（講座以外） 来所・訪問件数 123件〔77件〕 来所・訪問者数 130人〔149人〕							D	改善																										
<table><tr><th>指 標</th><th colspan="6">親学び・親子学び・子学び講座回数</th></tr><tr><th>年 度</th><th>R 5</th><th>R 6</th><th>R 7</th><th>R 8</th><th>R 9</th><th>R 10</th></tr><tr><th>目 標</th><td>50回</td><td>60回</td><td>70回</td><td>80回</td><td>90回</td><td>100回</td></tr><tr><th>実 績</th><td>49回</td><td>46回</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td></tr></table>									指 標	親学び・親子学び・子学び講座回数						年 度	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	目 標	50回	60回	70回	80回	90回	100回	実 績	49回	46回	－	－
指 標	親学び・親子学び・子学び講座回数																																	
年 度	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10																												
目 標	50回	60回	70回	80回	90回	100回																												
実 績	49回	46回	－	－	－	－																												

点検・評価のコメント及び活動内容等	達成度	評 価
③ 地域人材の育成 ○ 人材育成については、保育士を中心として主に乳幼児期に関する「保護者支援」の知識・技術等を身につけた保護者支援士の養成に努めた。また、結婚・妊娠・出産・育児まで切れ目のないきめ細やかな支援を行うコアサポーター養成講座・ファシリテーターの養成講座についても実施した。 ・家庭教育支援コアサポーターフォローアップ講座 1回目 4月26日 受講者数 14人〔24〕 2回目 2月4日 受講者数 12人 ・家庭教育支援プログラムファシリテーター養成・フォローアップ講座 3月8日 受講者数 27人〔27人〕 ファシリテーター数 131人〔124人〕 ・南島原市保護者支援スキルアップ講座 9月29日、10月20日、11月10日実施 延べ受講者数 45人〔43人〕	B	継続

(2) 図書館活動の充実

点検・評価のコメント及び活動内容等	達成度	評 価
① 子ども読書活動推進事業 ○ 「読書活動の推進を目的とした、図書館と幼稚園、保育園、および認定こども園との連携事業」では、希望のあった児童保育施設へ図書館職員を派遣し、子ども達の読書活動推進を図った。このほか、南島原市の子どもたちが、より確かな読書習慣や情報活用の力を身につけていくための指針として令和4年3月に策定した「南島原市子ども読書活動推進計画」に基づき、更なる読書活動の推進に取り組んだ。 保育園等との連携事業については、これまでの事業内容を検証し、令和7年度から実施内容を見直して進めていく。 ・図書館教室 内容 各図書館 参加者数 延べ 6, 273人〔9, 334人〕 ・図書館まつり 南島原市図書館まつり テーマ：絵本と鳥の巣の不思議 ～鳥の巣が教えてくれること～ 日 時：令和6年5月25日（土） 場 所：ありえコレジヨホール 参加者：ワークショップ（鳥の巣作り） 10組 講演会 33名 加津佐、有家図書館まつり 日時：令和6年11月16日（土） 令和6年11月17日（日） 場 所：ありえコレジヨホール 内 容：人形劇公演「ねずみの嫁入り他」 講 師：公益財団法人すぎのこ芸術文化振興会 参加者：加津佐 92名（子ども78名・大人14名） 有 家 81名（子ども51名・大人30名）	D	改善

指 標	保育園・幼稚園・認定こども園連携事業数					
年 度	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10
目 標	5事業	10事業	15事業	20事業	25事業	31事業
実 績	4事業	7事業	—	—	—	—

点検・評価のコメント及び活動内容等	達成度	評 価
② 読書サポーター養成事業 ○ 読書サポーター養成講座（年２回開催） 第１回 令和６年１１月２日 講 師：川口 かおる 氏（㈱童話館 編集企画室 室長） テーマ：絵本は心のたべもの ～読書がもたらしてくれる子どもの心の成長～ 参加者：３２名 第２回 令和６年１１月９日 講 師：山田 則子 氏（活水女子大学非常勤講師） テーマ子どもと本、読書 ～今、子どもが本を読むことの大切さを考える～ 参加者：３５名 ○ 図書館友の会支援事業 内容 図書館友の会７団体へ運営費補助	B	継続

（３）地域交流活動拠点施設の活性化

点検・評価のコメント及び活動内容等	達成度	評 価
① 地域活性化フォーラムの開催 ○ 地域全体で未来を担う子どもたちの豊かな学びの提供と成長を支えるため、地域のあり方を見つめ直すとともに、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の重要性の認識と関係者相互の資質の向上を図ることを目的に「地域の力を考える集い」を開催した。 ・地域の力を考える集い 第１回 ８月 ３日（土）実施 ６７名参加 第２回 ９月２８日（土）実施 ５２名参加 第３回 １月２５日（土）実施 ８１名参加	C	継続

指 標	地域活性化フォーラム「地域の力を考える集い」参加者数					
年 度	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10
目 標	200人	220人	240人	260人	280人	300人
実 績	44人	200人	—	—	—	—

（４）生涯学習施設の維持管理

点検・評価のコメント及び活動内容等	達成度	評 価
① 社会教育施設の整備 ○ 「南島原市公共施設等総合管理計画」に基づき修繕等を実施し、施設の維持管理に努めた。主な施設整備は以下のとおり。 ・ 口之津図書館昇降機取替工事 2,049 万 3 千円 ・ 堂崎公民館 2 階和室等空調機取替工事 1,120 万 5 千円 ・ 口之津公民館空調機取替工事 339 万 4 千円	B	継続
② 社会教育施設の適正配置 ○ 施設については、市民生活の基盤として公共サービスの提供を行ってきたが、人口減少と少子高齢化が進行中であり、税収の減少と扶助費の増加が見込まれることから、施設の維持や更新等に必要な財源の確保は、より一層困難なものとなってきたため、「南島原市公共施設等総合管理計画」に基づく個別施設計画により、施設の再編を推進しており、地区公民館等の現在利用している地元自治会等への譲渡または廃止等を推進した。	B	継続

(5) 教育 DX の推進・デジタル人材の育成

点検・評価のコメント及び活動内容等	達成度	評 価
① 公民館講座等のデジタル活用推進 ○ スマートフォンやパソコンを活用するため、各地区で行っている高齢者教室等で実施した。	C	継続
② 図書館のデジタルライブラリー事業の推進 ○ 県内市町村での導入状況や取り組み状況について調査を行い、導入検討を進めている。	E	継続
③ 社会教育施設管理 DX の推進 ○ 社会教育施設利用の利便性の向上のため、オンライン予約システムを導入した。今後は、更なる利便性の向上のため、令和8年4月までにオンライン申請・キャッシュレス決済の整備に取り組む。 ・社会教育施設オンライン予約システムによる各町施設分の予約状況閲覧	B	拡充

2 青少年の健全育成

(1) 青少年の健全育成

点検・評価のコメント及び活動内容等							達成度	評 価																												
① 放課後子ども教室推進事業（寺子屋 21） ○ 放課後こども教室推進事業（寺子屋 21） 令和6年度は計画通り6月から開催し、前期・後期教室ともに実施した。 週末活動がメインであることから、今後平日の居場所づくりや学習活動の場として、新しい生活様式のもと放課後教室の拡充に努めた。 前期 51教室〔56教室〕 後期 49教室〔53教室〕 ○ 南島原未来塾 高校入試を控えた中学生への学習支援（基礎学力の向上）や、社会的・職業的自立に向けたキャリア形成に必要な能力等を培うことを目的に実施した。							C	継続																												
<table><tr><th>指 標</th><th colspan="6">放課後子ども教室（寺子屋 21）の延べ参加者数</th></tr><tr><th>年 度</th><th>R 5</th><th>R 6</th><th>R 7</th><th>R 8</th><th>R 9</th><th>R 1 0</th></tr><tr><th>目 標</th><td>8 0 0 人</td><td>9 0 0 人</td><td>1, 0 0 0 人</td><td>1, 3 0 0 人</td><td>1, 7 0 0 人</td><td>2, 0 0 0 人</td></tr><tr><th>実 績</th><td>9 4 4 人</td><td>7 4 2 人</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr></table>									指 標	放課後子ども教室（寺子屋 21）の延べ参加者数						年 度	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 1 0	目 標	8 0 0 人	9 0 0 人	1, 0 0 0 人	1, 3 0 0 人	1, 7 0 0 人	2, 0 0 0 人	実 績	9 4 4 人	7 4 2 人	—	—	—	—
指 標	放課後子ども教室（寺子屋 21）の延べ参加者数																																			
年 度	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 1 0																														
目 標	8 0 0 人	9 0 0 人	1, 0 0 0 人	1, 3 0 0 人	1, 7 0 0 人	2, 0 0 0 人																														
実 績	9 4 4 人	7 4 2 人	—	—	—	—																														
② 通学合宿事業 ○ 地域で学ぶ通学合宿事業 当初、4地区で開催を計画していたが、申込者が実施人数に満たなかったため、2地区のみでの開催となった。令和7年度は事業内容・スケジュール等を精査し、実施に向けて改善を図る。 ・ 6泊7日通学合宿 南有馬 11月17日（日）～11月23日（土） 参加者数 8名 ・ 3泊4日通学合宿 北有馬 10月27日（日）～10月30日（水） 参加者数 8名							D	改善																												
<table><tr><th>指 標</th><th colspan="6">通学合宿の実施小学校数</th></tr><tr><th>年 度</th><th>R 5</th><th>R 6</th><th>R 7</th><th>R 8</th><th>R 9</th><th>R 1 0</th></tr><tr><th>目 標</th><td>4 校</td><td>4 校</td><td>6 校</td><td>8 校</td><td>1 0 校</td><td>1 2 校</td></tr><tr><th>実 績</th><td>0 校</td><td>2 校</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr></table>									指 標	通学合宿の実施小学校数						年 度	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 1 0	目 標	4 校	4 校	6 校	8 校	1 0 校	1 2 校	実 績	0 校	2 校	—	—	—	—
指 標	通学合宿の実施小学校数																																			
年 度	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 1 0																														
目 標	4 校	4 校	6 校	8 校	1 0 校	1 2 校																														
実 績	0 校	2 校	—	—	—	—																														

点検・評価のコメント及び活動内容等		達成度	評 価																
③ 地域学校協働活動推進事業 ○ 学校支援会議を核とした「南島原っ子の夢・憧れ・志育成プロジェクト」に基づき、学校・家庭・地域の更なる連携・協働による子どもたちの生きる力や相互の教育力の向上に努めた。 会議、研修会を通じて、これからの学校と地域の目指すべき姿として、コミュニティ・スクール、地域学校協働活動へ移行を進めた。 令和6年度は、3地区目となる布津地区地域学校協働本部の設立を行った。 学校教育部局と調整を図りながら事業を推進した。 ・地域学校協働本部設置件数 3地区（南有馬・口之津・布津）〔2地区〕		B	継続																
④ 人権教育推進事業 ○ 青少年人権教育推進事業の開催 ・青少年人権講演会（市内全ての中学生対象） <table><tr><td>12月 3日(火) 加津佐中学校</td><td>講師：磯永 大樹 氏</td></tr><tr><td>12月 4日(水) 有家中学校</td><td>講師：黒田 真紀 氏</td></tr><tr><td>12月 5日(木) 深江中学校</td><td>講師：梅木澤 茂 氏</td></tr><tr><td>12月 6日(金) 布津中学校</td><td>講師：濱口 美穂 氏</td></tr><tr><td>12月 10日(火) 西有家中学校</td><td>講師：土手野 和弘 氏</td></tr><tr><td>12月 12日(木) 北有馬中学校</td><td>講師：小玉 澄香 氏</td></tr><tr><td>12月 17日(火) 南有馬中学校</td><td>講師：池永 識好 氏</td></tr></table> ・人権教育学習会（市内小学生対象） <table><tr><td>12月 5日(木) 有馬小学校</td><td>講師：小松 由佳 氏</td></tr></table>		12月 3日(火) 加津佐中学校	講師：磯永 大樹 氏	12月 4日(水) 有家中学校	講師：黒田 真紀 氏	12月 5日(木) 深江中学校	講師：梅木澤 茂 氏	12月 6日(金) 布津中学校	講師：濱口 美穂 氏	12月 10日(火) 西有家中学校	講師：土手野 和弘 氏	12月 12日(木) 北有馬中学校	講師：小玉 澄香 氏	12月 17日(火) 南有馬中学校	講師：池永 識好 氏	12月 5日(木) 有馬小学校	講師：小松 由佳 氏	B	継続
12月 3日(火) 加津佐中学校	講師：磯永 大樹 氏																		
12月 4日(水) 有家中学校	講師：黒田 真紀 氏																		
12月 5日(木) 深江中学校	講師：梅木澤 茂 氏																		
12月 6日(金) 布津中学校	講師：濱口 美穂 氏																		
12月 10日(火) 西有家中学校	講師：土手野 和弘 氏																		
12月 12日(木) 北有馬中学校	講師：小玉 澄香 氏																		
12月 17日(火) 南有馬中学校	講師：池永 識好 氏																		
12月 5日(木) 有馬小学校	講師：小松 由佳 氏																		
⑤ 高校生キャリア教育事業 ○ 青少年教育推進事業（次世代プログラム事業） 市内の高校生を対象にコミュニケーション力、それぞれの個性を生かす自己プレゼン法を身に付け社会人として一步を踏み出すための支援を行った。 ・口加高校 7月22日（月）・23日（火） 参加者数130名 ・島原翔南高校 7月31日（水） 参加者数 23名		B	継続																

3 文化・芸術の振興

(1) 文化・芸術への鑑賞・創造・参加機会の充実

点検・評価のコメント及び活動内容等							達成度	評 価																										
① 芸術文化振興事業 ○ 多くの市民に親しまれる本物の舞台芸術や展覧会などの鑑賞機会を提供し、文化・芸術の振興と豊かな地域づくりの推進を目的に開催した。 これにより、更に多くの方が気軽に鑑賞できる機会の提供を図る。 ・ミラクルひかる&ほいけんた 爆笑ものまねL I V E in 南島原 公演日 6月8日(土) ありえコレジヨホール 観客 540人(78%) ・セロ弾きのゴーシュ公演 公演日 11月30日(土) 西有家カマス 観客 285人(100%) ・ミュージカル A L I C E～不思議の国のアリスより～ 公演日 1月16日(木) ありえコレジヨホール 観客 667人(99%)							A	継続																										
<table><tr><th>指 標</th><th colspan="6">舞台芸術イベントの参加率</th></tr><tr><th>年 度</th><td>R 5</td><td>R 6</td><td>R 7</td><td>R 8</td><td>R 9</td><td>R 1 0</td></tr><tr><th>目 標</th><td>7 0 %</td><td>7 0 %</td><td>8 0 %</td><td>8 0 %</td><td>9 0 %</td><td>9 0 %</td></tr><tr><th>実 績</th><td>7 6 %</td><td>9 2 %</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr></table>									指 標	舞台芸術イベントの参加率						年 度	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 1 0	目 標	7 0 %	7 0 %	8 0 %	8 0 %	9 0 %	9 0 %	実 績	7 6 %	9 2 %	—	—
指 標	舞台芸術イベントの参加率																																	
年 度	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 1 0																												
目 標	7 0 %	7 0 %	8 0 %	8 0 %	9 0 %	9 0 %																												
実 績	7 6 %	9 2 %	—	—	—	—																												
② 子ども芸術鑑賞事業 ○ 子ども達が自分の夢に向かって、心豊かにたくましく生き抜く力を身につけさせるために、生の舞台芸術を鑑賞する機会を設け、青少年の「心の教育」として子ども達の豊かな善き人格形成に寄与することを目的に事業を開催した。 ・青少年劇場（中学生対象）参加人数 延べ 243名 公演日 10月30日（水） 内 容 古典芸能 笑いの芸能「寄席」 落語家3名 公演日 11月15日（金） 内 容 音楽 連弾 RENDAN～1台のピアノと2人のピアニスト ・子ども夢劇場（小学生対象）※深江地区～西有家地区 参加者数 延べ 1,265名 公演日 12月2日～5日（4日間4ステージ） 内容 演劇 「ユエと瑠璃色の石」 劇団風の子中部							B	継続																										
<table><tr><th>指 標</th><th colspan="6">子ども芸術鑑賞イベントの参加率</th></tr><tr><th>年 度</th><td>R 5</td><td>R 6</td><td>R 7</td><td>R 8</td><td>R 9</td><td>R 1 0</td></tr><tr><th>目 標</th><td>1 0 0 %</td><td>1 0 0 %</td><td>1 0 0 %</td><td>1 0 0 %</td><td>1 0 0 %</td><td>1 0 0 %</td></tr><tr><th>実 績</th><td>1 0 0 %</td><td>1 0 0 %</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr></table>									指 標	子ども芸術鑑賞イベントの参加率						年 度	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 1 0	目 標	1 0 0 %	1 0 0 %	1 0 0 %	1 0 0 %	1 0 0 %	1 0 0 %	実 績	1 0 0 %	1 0 0 %	—	—
指 標	子ども芸術鑑賞イベントの参加率																																	
年 度	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 1 0																												
目 標	1 0 0 %	1 0 0 %	1 0 0 %	1 0 0 %	1 0 0 %	1 0 0 %																												
実 績	1 0 0 %	1 0 0 %	—	—	—	—																												

(2) 本市の魅力を高める文化・芸術活動の振興

点検・評価のコメント及び活動内容等							達成度	評 価
① 文化団体育成支援事業 ○ 南島原市社会教育関係団体補助金 南島原市文化協会の活動の充実を図るため補助金を交付した。							C	継続
指 標	文化協会会員数							
年 度	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 1 0		
目 標	1, 800 人	1, 800 人	1, 800 人	1, 900 人	1, 900 人	2, 000 人		
実 績	1, 737 人	1, 755 人	－	－	－	－		

点検・評価のコメント及び活動内容等							達成度	評 価
② セミナリヨ現代版画展開催事業							A	継続
○ 第23回セミナリヨ現代版画展の開催								
・ 2月22日(土)～3月2日(日) ありえコレジヨホール								
参観者数 1, 728人 [1, 914人]								
指 標	セミナリヨ現代版画展の応募作品数							
年 度	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 1 0		
目 標	10,000 点	10,000 点	10,000 点	10,000 点	10,000 点	10,000 点		
実 績	10,845 点	11,067 点	—	—	—	—		

(3) 市民文化・芸術活動の推進

点検・評価のコメント及び活動内容等							達成度	評 価
① アートビレッジ・シラキノ事業 ○ アーティスト・イン・レジデンス（A I R）事業 令和6年度は全国公募型により7名の作家を招へいし、共に制作活動をする機会を提供することで、作家同士の育成・スキルアップにもつながった。 また、A I R事業以外の個展やワークショップも開催し、多くの地域住民等との交流により、本市の多様な魅力の創出につながった。 ・アートビレッジ・シラキノ エducーター（※） 池田 俊彦 氏 ・アーティスト・イン・レジデンス事業（7名） 8月～9月 1名（朝井颯志） 2名（山本 遥、大杉祥子） 1月～3月 4名（須貝 旭、吉浦真琴、吉川 彩、フォック・チン） ・銅版画講座 参加者 延べ 45人〔16人〕 Aコース（休日）4回（12/1, 8, 15, 22） Bコース（平日）4回（12/4, 11, 18, 25） ・木版画講座 参加者 延べ 69人〔67人〕 9回 10名参加 （11/11～12/9 毎週月、木） ※ エducーター：美術館や博物館において教育・普及活動を行う専門家。 展示解説や各種の教育プログラムなどに携わり、来館者の学習を支援する。 ○ 企画展 ・熊本県立大学 高橋研究室 建築設計作品展(29日台風のため臨時休館) 令和6年8月28日～31日 来館者数52名 ・佐賀大学 地域デザイン学部 教授 徳安和博彫刻展 令和6年12月6日～令和7年1月13日 来館者数362名 ○ 施設（ギャラリー、工房、宿泊）の利用 施設の運営面ではギャラリー・工房・宿泊施設の個人やグループでの利用拡大に向けた取組を行った。							A	継続
指 標 アートビレッジ・シラキノ施設入館者数								
年 度	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 1 0		
目 標	2,000 人	2,100 人	2,200 人	2,300 人	2,400 人	2,500 人		
実 績	2,057 人	2,222 人	—	—	—	—		

(4) 伝統文化・伝統芸能の保存と継承

点検・評価のコメント及び活動内容等							達成度	評価
① 郷土芸能保存継承支援事業 ○ 郷土芸能保存会補助金 市内各地区に残る郷土芸能の保存と継承及び発展を図るために郷土芸能保存会 8 団体に対し補助金を交付した。 会員の高齢化や若年層の参加不足により、団体の存続自体が危機的状況に立たされているのが大きな課題である。							D	継続
指 標	郷土芸能保存会団体数							
年 度	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 1 0		
目 標	1 3 団体	1 3 団体	1 3 団体	1 4 団体	1 4 団体	1 5 団体		
実 績	1 0 団体	8 団体	－	－	－	－		

4 その他

社会教育委員兼公民館運営審議会委員の活動

- 社会教育委員兼公民館運営審議会会議を年4回開催し、教育委員会が計画する事業の説明や事業の進捗状況及び研修、実績について報告を行った。

実践する社会教育委員を目指し、生涯学習課が主催する研修会・講演会へ参加し、事業の意義や問題点などに対する指導や助言を行った。

また、外部研修会等に参加した委員より、研修成果について委員相互の共有化を図るため、会議時に報告を行った。

今後も、提言書「潤いとつながりのある地域教育力向上を図る」の具現化に向けた取組について協議を行っていくこととした。

【会議】

第1回 6月7日（水）

- ・令和6年度社会教育事業計画について
- ・令和6年度研修・大会計画について

第2回 11月21日（木）

- ・令和6年度社会教育事業計画の記載事項の追加について
- ・令和6年度前期における研修・大会等の参加報告について
- ・各地区における公民館講座及び各種事業の実施状況報告、協議

第3回 1月25日（土）

- ・令和7年度生涯学習課事業ごとの予算要求額について

第4回 3月26日（水）

- ・令和6年度事業実績見込みについて
- ・令和7年度研修等の予定について

【研修会・講演会】

- ・第3回 地域の力を考える集い 1月25日（土）

- 社会教育並びに公民館関係の研究大会、および県研修会に参加し、社会教育委員兼公民館運営審議会委員としての意識向上と自己研鑽を図った。

区 分	九州地区研究大会	県研究大会	県研修会
参 加 回 数	1回〔2回〕	2回〔2回〕	2回〔3回〕
参加延べ人数	4人〔8人〕	13人〔8人〕	6人〔9人〕

子ども会育成事業

- 子ども映画会および次期ジュニアリーダー研修会、のびのび少年デーについて開催し、多くの子どもたちの参加を図った。

また、今年度も DX 推進班と連携を図りながら、夏休み期間を活用しながら「e スポーツ大会」を実施し、地区子ども会の垣根を超えたイベントを実施した。

- ・令和6年度夏休み子ども映画会

日 時：令和6年8月19日（月）

場 所：ありえコレジヨホール

上映作品：FLY！／フライ！

来場者数：565名〔440名〕

- ・e スポーツ大会

地区予選大会

開 催：深江・布津・有家・西有家・北有馬・南有馬・口之津地区

日 時：7月～9月

参加者：延べ82名〔80名〕

決勝大会

日 時：10月14日（月・祝）

場 所：ありえコレジヨホール

参加者：延べ40名

- ・のびのび少年デー

11月9・10日 開催

参加者数 240名〔226名〕

- ・次期ジュニアリーダー研修会

3月13日（土）

参加者数 13〔14名〕※東部3名、南部11名

青少年健全育成事業

- 青少年の健全育成及び非行事故防止を目的に実施した。

また、毎年4月に開催している「自然と遊ぼう」について5年ぶりの開催となったが雨天のため中止となった。

- ・自然と遊ぼう

雨天のため中止 参加者数 —〔—〕

- ・少年ソフトボール大会 9月15日（日）

参加チーム数 5チーム〔7チーム〕

- ・夏休み帰宅放送（各中学校代表）

夏休み期間 7月20日（土）～9月1日（日）

- ・ファミリンピック 10月12日（土）

参加者数 約400人〔400人〕

- ・南島原市民会議ココロねっこ運動広報活動

ココロねっこポロシャツの販売

関係団体および学校等へのグッズの配布（帽子、横断旗、バッヂ等）

3 スポーツの振興

1 生涯スポーツの推進

(1) 生涯を通じたスポーツの推進

点検・評価のコメント及び活動内容等							達成度	評 価																												
① 南島原市スポーツ協会との連携 ○ 現在、スポーツ協会は24競技団体が加盟しており、スポーツ競技の普及・振興を図り、市民の体力向上と健康増進に寄与するために、生涯学習課とスポーツ協会が連携し、市民スポーツ大会の開催や県民体育大会への選手団の派遣等、市内競技スポーツの競技力の向上に取り組んだ。 ・第19回南島原市民スポーツ大会 参加者数 1,764人 ・南島原市スポーツ講演会 参加者数 212人 ・南島原 kids スポーツ体験教室 参加者数 84人							B	継続																												
② 南島原市スポーツ推進委員会との連携 ○ 教育委員会とスポーツ推進委員会が連携することで、市内全体のスポーツ事業のスムーズな運営が図られた。 また、スポーツ推進委員が中心となって取り組んでいる、地区体育祭や連携事業として新体力テストなどを実施するほか、綱引き大会に代わるスポーツ推進イベントを新たに組織化して実施した。 ・新体力テスト（市内4地区） ・各支部での取り組み（寺子屋軽スポーツ教室、深江あるき等） ・地区体育祭（加津佐・北有馬地区） <table><tr><th>指 標</th><th colspan="6">体力・運動能力調査参加者数</th></tr><tr><th>年 度</th><th>R 5</th><th>R 6</th><th>R 7</th><th>R 8</th><th>R 9</th><th>R 10</th></tr><tr><th>目 標</th><td>40人</td><td>40人</td><td>50人</td><td>50人</td><td>60人</td><td>60人</td></tr><tr><th>実 績</th><td>70人</td><td>76人</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td></tr></table>							指 標	体力・運動能力調査参加者数						年 度	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	目 標	40人	40人	50人	50人	60人	60人	実 績	70人	76人	－	－	－	－	A	継続
指 標	体力・運動能力調査参加者数																																			
年 度	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10																														
目 標	40人	40人	50人	50人	60人	60人																														
実 績	70人	76人	－	－	－	－																														
③ 総合型地域スポーツクラブ「TEAM ひまわり」との連携 ○ TEAMひまわりが取り組んでいる幼児期からの運動能力・運動神経の向上を目的とした保育園・幼稚園を巡回する「からだ遊び教室」や「各種スポーツ教室」等の事業を実施した。また、多目的運動広場の指定管理者である「TEAMひまわり」と連携し、施設の利活用や子どもの体力・運動能力向上に取り組んだ。 ・部活動地域移行推進事業及びGrowSports 南島原 地域クラブ設立及び運営支援、地域クラブ移行期間における生徒移送サービス事業など							B	継続																												
④ 部活動の地域移行 ○ 本市における部活動の地域移行は関係団体と連携し、学校体育としての位置づけではなく、地域活動（社会体育）として位置づけ、スポーツ・文化活動を持続可能な活動にする取り組みを行った。 今後は、地域クラブ設立・運営支援や地域クラブサポートセンター（仮称）の設立などの事業拡充に取り組む。 ・サポートセンターの設立、地域クラブの設立支援、地域クラブ認定制度、部活動地域移行推進事業及びGrowSports 南島原、指導者等人材リスト登録促進等 ・中学校社会体育・文化活動支援事業補助金 1,200 千円 ・総合型地域スポーツクラブ支援補助金 2,500 千円							A	拡充																												

点検・評価のコメント及び活動内容等	達成度	評価
⑤ 各種スポーツ大会運営費等支援事業 ○ 口加駅伝競走大会 平成31年度開催以来5年ぶりに小学生12チーム、中高生一般14チームが参加して、第14回口加駅伝競走大会が12月15日に開催された。 参加者数 140人 ○ 南島原市スポーツ推進イベント スポーツ推進委員会を中心としたスポーツ推進イベント実行委員会を立ち上げ、モルック競技の普及啓発に取り組み、各地区で体験会を実施した。 参加者数 120人〔48人〕	B	継続

(2) 各種スポーツ教室の実施 【スポーツ教室・体験事業開催数：5回】

点検・評価のコメント及び活動内容等							達成度	評 価																												
① 小学生水泳教室の実施 ○ 本市は前浜・白浜海水浴場といった美しい自然環境を有していることから水泳に親しむ環境づくりと、水難防止の目的のため市内全地区で、3年生～6年生を対象に水泳教室を開催した。 また、昨年度からB＆G指導員を小学校に派遣して、水泳指導を行っており、今年度も同様に実施した。 参加者数 延べ 120人〔109人〕 <table><tr><th>指 標</th><th colspan="6">水泳教室の参加率（小学3年生以上）</th></tr><tr><th>年 度</th><th>R 5</th><th>R 6</th><th>R 7</th><th>R 8</th><th>R 9</th><th>R 10</th></tr><tr><th>目 標</th><td>10%</td><td>12%</td><td>14%</td><td>16%</td><td>18%</td><td>20%</td></tr><tr><th>実 績</th><td>12%</td><td>10%</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr></table>							指 標	水泳教室の参加率（小学3年生以上）						年 度	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	目 標	10%	12%	14%	16%	18%	20%	実 績	12%	10%	—	—	—	—	C	継続
指 標	水泳教室の参加率（小学3年生以上）																																			
年 度	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10																														
目 標	10%	12%	14%	16%	18%	20%																														
実 績	12%	10%	—	—	—	—																														
② マリンスポーツ教室の実施 ○ マリンスポーツ教室は、故郷の美しい海を体感することを目的に、カヌー・SUP等を活用し、小学生用プログラムと親子の触れ合いを目的とした親子プログラムを実施したが、少子化による市内小学生の減少により、当初の参加者目標数には満たなかった。 7月20日(土)～8月15日(木) 計14回 <table><tr><th>指 標</th><th colspan="6">マリンスポーツ教室参加者数</th></tr><tr><th>年 度</th><th>R 5</th><th>R 6</th><th>R 7</th><th>R 8</th><th>R 9</th><th>R 10</th></tr><tr><th>目 標</th><td>160人</td><td>160人</td><td>160人</td><td>160人</td><td>160人</td><td>200人</td></tr><tr><th>実 績</th><td>152人</td><td>148人</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr></table>							指 標	マリンスポーツ教室参加者数						年 度	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	目 標	160人	160人	160人	160人	160人	200人	実 績	152人	148人	—	—	—	—	C	継続
指 標	マリンスポーツ教室参加者数																																			
年 度	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10																														
目 標	160人	160人	160人	160人	160人	200人																														
実 績	152人	148人	—	—	—	—																														
③ 自然体験事業の実施 ○ B＆G海洋センター事業「ネイチャー」は、南島原市の自然に触れ合う体験活動をとおして、郷土を愛する心を育むことを目的に実施した。 参加者数 延べ 75人〔61人〕 ○ 「海と山のB＆G塾」は、南島原市の豊かな海や山などの自然を楽しむ体験活動をとおして、地域の人との関わりと郷土愛の醸成を図ることを目的に実施した。 参加者数 延べ 135人〔104人〕 ○ 砂ASOビーチ IN 南島原は、市内の小学生や地域住民等を対象に、海を楽しむ、親しむことで海への関心や好奇心の向上を図るとともに、海洋ごみなどの課題の解決に向けたアクションの輪を広げることを目的に実施した。 参加者数 延べ 666人〔1,014人〕							B	継続																												

(3) シニアスポーツの推進

点検・評価のコメント及び活動内容等	達成度	評 価
① シニア向け運動教室の実施 ○ シニアが気軽にできるスポーツやレクリエーション等の運動教室を実施して、スポーツ活動への参加を促すとともに、健康・生きがいづくりの促進を図る。 総合型地域スポーツクラブ「チームひまわり」が、社会福祉協議会と連携し、各地域の高齢者の会合等に出向き運動教室が実施されたが、本課としては未実施であったため、今後、スポーツ推進委員と連携し、軽スポーツを取り入れたシニア向けの運動教室の実施に取り組んでいく。	E	改善

(4) スポーツにおけるDXの推進

点検・評価のコメント及び活動内容等	達成度	評 価
① eスポーツの推進 ○ 誰もが参加しやすいeスポーツの機会を提供し、コミュニケーションを促進し世代間交流を図った。子ども会事業で夏休み期間に、eスポーツ大会を実施した。 ・地区予選大会（深江・布津・有家・西有家・北有馬・南有馬・口之津地区） 期 間：7月～9月 参加者：延べ82名〔80名〕 ・決勝大会（ありえコレジヨホール） 期 日：10月14日（月・祝） 参加者：延べ40名	B	継続
② 社会体育施設管理DXの推進 ○ 社会体育施設利用の利便性の向上を図るため、オンライン予約システムを導入した。今後は、更なる利便性の向上のため、令和8年4月までにオンライン申請・キャッシュレス決済の整備、リモートロックの増設等に取り組む。 ・社会体育施設オンライン予約システムによる各町施設分の予約状況閲覧 ・施設リモートロック10ヵ所設置	B	拡充

(5) 各種スポーツクラブ等の育成

点検・評価のコメント及び活動内容等							達成度	評価																												
① 小中学生スポーツ大会出場支援事業 ○ 小・中学校の児童生徒を対象として、県大会、九州大会及び全国大会などの各予選を経て出場する各種大会に参加する経費の一部を補助金として交付し、社会体育・スポーツの振興を図った。 ・小中学生スポーツ大会出場補助金 1,998 千円 <table><tr><th>指 標</th><th colspan="6">小中学生スポーツ大会出場数</th></tr><tr><th>年 度</th><th>R 5</th><th>R 6</th><th>R 7</th><th>R 8</th><th>R 9</th><th>R 1 0</th></tr><tr><th>目 標</th><td>2 5 回</td><td>3 0 回</td><td>3 0 回</td><td>3 5 回</td><td>3 5 回</td><td>4 0 回</td></tr><tr><th>実 績</th><td>2 6 回</td><td>2 5 回</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr></table>							指 標	小中学生スポーツ大会出場数						年 度	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 1 0	目 標	2 5 回	3 0 回	3 0 回	3 5 回	3 5 回	4 0 回	実 績	2 6 回	2 5 回	—	—	—	—	C	継続
指 標	小中学生スポーツ大会出場数																																			
年 度	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 1 0																														
目 標	2 5 回	3 0 回	3 0 回	3 5 回	3 5 回	4 0 回																														
実 績	2 6 回	2 5 回	—	—	—	—																														
② 小学校社会体育活動支援事業 ○ 児童で組織するクラブ活動に対して、運営を支援するための補助金を交付し、児童の健全な育成と社会体育活動の振興を図った。 ・小学校社会体育活動補助金 825 千円 <table><tr><th>指 標</th><th colspan="6">小学校社会体育活動支援団体</th></tr><tr><th>年 度</th><th>R 5</th><th>R 6</th><th>R 7</th><th>R 8</th><th>R 9</th><th>R 1 0</th></tr><tr><th>目 標</th><td>3 5 団体</td><td>3 5 団体</td><td>3 5 団体</td><td>4 0 団体</td><td>4 0 団体</td><td>4 0 団体</td></tr><tr><th>実 績</th><td>3 2 団体</td><td>3 2 団体</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr></table>							指 標	小学校社会体育活動支援団体						年 度	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 1 0	目 標	3 5 団体	3 5 団体	3 5 団体	4 0 団体	4 0 団体	4 0 団体	実 績	3 2 団体	3 2 団体	—	—	—	—	C	継続
指 標	小学校社会体育活動支援団体																																			
年 度	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 1 0																														
目 標	3 5 団体	3 5 団体	3 5 団体	4 0 団体	4 0 団体	4 0 団体																														
実 績	3 2 団体	3 2 団体	—	—	—	—																														

2 スポーツ力の強化

(1) スポーツイベントの実施

点検・評価のコメント及び活動内容等							達成度	評 価
① 市民スポーツ大会の実施 ○ 本市の競技スポーツの祭典として実施し、市スポーツ協会と連携し、各競技団体の競技力の向上に取り組んだ。しかしながら、市内競技人口の減少により、当初の大会参加者数には満たなかった。 ・開催期間 7月7日（日）～10月31日（木）							C	継続
指 標	市民スポーツ大会参加者数							
年 度	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 1 0		
目 標	1,600 人	1,800 人	2,000 人	2,200 人	2,400 人	2,600 人		
実 績	1,790 人	1,764 人	－	－	－	－		
② 原城マラソン大会の実施 ○ 「第32回原城マラソン大会」を、令和7年2月23日に開催した。 前回に比べ参加者は増えたが、目標の参加者数には満たなかった。							C	継続
指 標	原城マラソン大会参加者数							
年 度	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 1 0		
目 標	1,500 人	1,600 人	1,700 人	1,800 人	1,900 人	2,000 人		
実 績	1,284 人	1,419 人	－	－	－	－		
③ スポーツ専門指導員育成講習会や講演会の開催 ○ 市内のジュニアから一般の指導者を対象に、講習会やスポーツ講演会を実施し、指導者の資質向上と育成を図った。 ・南島原市スポーツ講演会 参加者212人							B	継続

(2) 社会体育施設の整備

点検・評価のコメント及び活動内容等						達成度	評 価
① 社会体育施設の整備・管理 ○ 市民がスポーツに親しむ環境づくりに、社会体育施設の充実は必要不可欠であり、安全性や利便性を損なわないように維持管理の充実に取り組んだ。 主な施設整備 ・ 有家総合運動公園テニスコート照明改修工事 1,254 千円 ・ 口之津中学校グラウンド夜間照明ランプ取替修繕 990 千円 ・ 布津グラウンドフェンス修繕 966 千円						B	継続
② 社会体育施設の活用 ○ 社会体育施設の活用促進を図った。 主な施設利用状況 ・ 有家総合運動公園グラウンド 利用者数 17,232 人/年〔15,180 人〕 ・ 南有馬体育館 利用者数 18,677 人/年〔 9,208 人〕 ・ 布津テニスコート 利用者数 17,278 人/年〔14,949 人〕 ・ 深江体育館 利用者数 17,342 人/年〔14,681 人〕						A	継続

指 標	南島原市多目的運動広場利用者数					
年 度	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10
目 標	40,000 人	41,000 人	42,000 人	43,000 人	44,000 人	45,000 人
実 績	38,657 人	43,187 人	—	—	—	—

4 文化財の保護と活用

1 歴史・文化財の保護と保存整備・活用

(1) 「原城跡」・「日野江城跡」の保存整備

点検・評価のコメント及び活動内容等							達成度	評 価																												
① 原城跡保存整備事業 ○ 世界文化遺産の構成資産である国指定史跡原城跡の適切な保存継承を図り、教育・学習活動および地域振興などに寄与することを目的として整備基本計画に基づいた事業を実施。また、史跡の保存目的および整備目的として原城跡二ノ丸の発掘調査を実施した。 <table><tr><th>工事名称など</th><th>工事費など（円）</th></tr><tr><td>【指定文化財等保存整備事業】</td><td></td></tr><tr><td>原城跡地質調査業務委託（ボーリング孔内観察）</td><td>15,559,500</td></tr><tr><td>原城跡法面復旧工事（2工区）</td><td>28,097,300</td></tr><tr><td>原城跡雨水排水整備工事（本丸－2工区）</td><td>9,962,700</td></tr><tr><td>原城跡多目的広場（二ノ丸便益施設）測量設計業務</td><td>4,188,800</td></tr><tr><td>【指定文化財保護管理事業】</td><td></td></tr><tr><td>原城跡本丸陥没復旧工事</td><td>3,808,200</td></tr><tr><td>原城跡法面保護工事</td><td>266,200</td></tr></table>							工事名称など	工事費など（円）	【指定文化財等保存整備事業】		原城跡地質調査業務委託（ボーリング孔内観察）	15,559,500	原城跡法面復旧工事（2工区）	28,097,300	原城跡雨水排水整備工事（本丸－2工区）	9,962,700	原城跡多目的広場（二ノ丸便益施設）測量設計業務	4,188,800	【指定文化財保護管理事業】		原城跡本丸陥没復旧工事	3,808,200	原城跡法面保護工事	266,200	B	継続										
工事名称など	工事費など（円）																																			
【指定文化財等保存整備事業】																																				
原城跡地質調査業務委託（ボーリング孔内観察）	15,559,500																																			
原城跡法面復旧工事（2工区）	28,097,300																																			
原城跡雨水排水整備工事（本丸－2工区）	9,962,700																																			
原城跡多目的広場（二ノ丸便益施設）測量設計業務	4,188,800																																			
【指定文化財保護管理事業】																																				
原城跡本丸陥没復旧工事	3,808,200																																			
原城跡法面保護工事	266,200																																			
② 日野江城跡保存整備事業 ○ 原城跡の関連遺産である国指定史跡日野江城跡の適切な保存継承を図り、教育・学習活動および地域振興などに寄与することを目的として各種調査、整備事業を実施。防災事業に関しては、原城跡の整備に関することともに、指導助言を得る専門委員会等を開催し、日野江城跡の三ノ丸周辺の雨水排水対策を講じるための工事を行った。 <table><tr><th>工事名称など</th><th>工事費など（円）</th></tr><tr><td>日野江城跡雨水排水整備工事（本丸－2工区）</td><td>8,042,100</td></tr></table>							工事名称など	工事費など（円）	日野江城跡雨水排水整備工事（本丸－2工区）	8,042,100	B	継続																								
工事名称など	工事費など（円）																																			
日野江城跡雨水排水整備工事（本丸－2工区）	8,042,100																																			
③ 指定文化財公有化事業 ○ 原城跡公有化事業 史跡「原城跡」は、昭和13年5月30日に国指定史跡となり、昭和54年度から公有化事業に着手した。指定面積約486,000㎡のうち、令和6年度に、2筆184,37㎡を購入、公有化面積が34,4356.94㎡となった。 ○ 日野江城跡公有化事業 史跡「日野江城跡」は、昭和57年7月3日に国指定史跡となり、昭和58年度から公有化事業に着手した。指定面積約126,700㎡のうち、令和6年度に、14筆5,368㎡を購入、公有化面積が、87,562.90㎡となった。 <table><tr><th>指 標</th><th colspan="6">史跡原城跡の公有化率</th></tr><tr><th>年 度</th><th>R 5</th><th>R 6</th><th>R 7</th><th>R 8</th><th>R 9</th><th>R 1 0</th></tr><tr><th>目 標</th><td>72%</td><td>74%</td><td>75%</td><td>78%</td><td>80%</td><td>82%</td></tr><tr><th>実 績</th><td>70.7%</td><td>70.8%</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr></table>							指 標	史跡原城跡の公有化率						年 度	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 1 0	目 標	72%	74%	75%	78%	80%	82%	実 績	70.7%	70.8%	—	—	—	—	C	継続
指 標	史跡原城跡の公有化率																																			
年 度	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 1 0																														
目 標	72%	74%	75%	78%	80%	82%																														
実 績	70.7%	70.8%	—	—	—	—																														

点検・評価のコメント及び活動内容等						達成度	評価
指標	史跡日野江城跡の公有化率						
年度	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	
目標	69%	70%	71%	72%	73%	75%	
実績	64.8%	69.1%	—	—	—	—	

(2) 市内文化財の保存整備

点検・評価のコメント及び活動内容等		達成度	評 価
① 埋蔵文化財発掘調査事業（開発事業） ○ 開発行為が埋蔵文化財に影響を与えるか判断するために、市道・農道整備事業や民間（企業・個人）の開発行為に伴う遺跡照会や調査を試掘、範囲確認、内容確認など実施した。埋蔵文化財に影響があると判断した県営基盤整備事業に伴うものとして、馬場地区（深江町）において2遺跡の発掘調査と整理作業、見岳地区（西有家町）の2遺跡、大苑地区（有家町）の1遺跡の整理作業を進めた。 また、国交省砂防事業（深江町）に伴うもので、権現脇遺跡の範囲確認、本調査・整理作業を実施した。		B	継続
② 埋蔵文化財発掘調査事業（学術目的） ○ 原城跡二ノ丸においては、学術及び整備目的の内容確認調査として発掘調査を実施した。また、原城跡、日野江城跡における整備や調査方針などについて、専門委員会を開催し、指導助言を受けた。		B	継続
③ 文化財の指定 ○ 令和6年度においては、文化財保護審議会の答申を受けて指定又は認定はなかったが、指定文化財等の保護及び活用などの整備方針や内容について、現状を認識した意見を得るために、文化財保護審議会委員と指定文化財の巡回視察を行った。		B	継続

(3) 文化財周辺の環境保全

点検・評価のコメント及び活動内容等		達成度	評価
① 指定文化財等の巡視及び清掃活動 ○ 指定文化財の巡回 国及び県指定の文化財については、県から委嘱された文化財保護指導委員による巡視を3回実施され、き損等の初期発見に努めた。原城跡、日野江城跡などにおいては、定期巡回を兼ねた清掃、除草作業を実施。清掃時などにおける気付きなどの報告による現場確認や対応を行った。また、主な市指定文化財は、巡回を兼ねての、除草作業を随時実施した。 ○ 文化財周辺の清掃活動 主要な文化財については、随時巡回を兼ねた除草作業を実施、山ノ寺梶木遺跡（深江町）については、周辺の道路の除草作業を行った。また、あこう群落（口之津町）においては、地元浜自治会の協力による定期的な清掃活動への活動支援として、必要な清掃用具を提供した。		B	継続

2 歴史・文化財の活用と普及

(1) 歴史・文化財の活用と普及の推進

点検・評価のコメント及び活動内容等	達成度	評価
① 指定文化財及び遺跡情報等の周知活動 ○ 市ホームページにて指定文化財の情報を提供、広報紙の紙面にて毎月市内の史跡などを紹介し、深江埋蔵文化財・噴火災害資料館にて連動した展示や、市役所有家庁舎において、町村遺跡の出土品である甕棺（かめかん）などを展示した臨時の企画展を実施した。 また、長崎県遺跡情報システムの活用とともに、窓口においても遺跡照会事業を行った。	B	継続

(2) 歴史・文化施設等の環境整備と適正な維持管理

点検・評価のコメント及び活動内容等	達成度	評価
① 企画展等の開催 ○ ロ之津歴史民俗資料館では資料館職員企画による企画展を実施、史跡などを訪ね歩く健康ウォーキング「ロ之津町の歴史を歩く」を2回、収蔵品などを活用した、「懐かしい生活道具展」や「ひな人形展」を各1回開催した。 深江埋蔵文化財・噴火災害資料館においては、市広報紙面での紹介した出土品を実物展示するなど、紙媒体と連動させた展示を実施した。 ○ 環境整備と適切な維持管理として、ロ之津歴史民俗資料館分館において、収蔵品の燻蒸処理や空調設備の取換えを実施。また、県指定有形文化財であることから、文化財の保護と入館者などへの安全面に配慮した取り組みとして、文化財防火デーである令和7年1月26日(日)に、消防署や地元消防団などの協力を得て、文化財防火訓練を実施した。	B	継続

3 世界遺産を活用したまちづくりの推進と適切な保全

(1) 世界遺産センターの整備

点検・評価のコメント及び活動内容等							達成度	評 価
① 原城跡世界遺産センター整備事業							C	継続
○ 原城跡の世界遺産としての価値の理解促進と市内の文化資源や観光資源を巡る拠点施設として、物産販売所や観光案内所の機能も備えた世界遺産センターを整備するために、ソフト面を主とした展示工事に着手するとともに、事業認定の手続きを行い、用地取得、移転補償を完了させ、造成工事、建築工事、電気設備工事、機械設備工事などの主要な工事について契約し、事業に本格的に着手した。								
※令和8年度中供用開始予定								
指標 原城跡世界遺産センターの整備進捗率								
年度	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 1 0		
目標	1 3 %	4 3 %	1 0 0 %	1 0 0 %	1 0 0 %	1 0 0 %		
実績	7 %	1 3 %	－	－	－	－		
指標 原城跡世界遺産センターの来場者数								
年度	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 1 0		
目標	－	－	－	75,000 人	150,000 人	150,000 人		
実績	－	－	－	－	－	－		

(2) ガイダンス機能の充実

点検・評価のコメント及び活動内容等							達成度	評 価
① 歴史資料調査及び展示用コンテンツ作成事業							B	継続
○ 世界遺産センターでの展示の目玉とするために、島原市や長崎歴史文化博物館に所蔵されている島原・天草一揆に関する 3 5 点の絵図資料について、デジタル化や多言語化を行った。								
② V R 等デジタルコンテンツ整備活用事業							C	継続
○ 原城跡への理解を促進するため、原城の築城時や一揆当時を再現した「原城 VR」を平成 30 年度に制作及び公開をしており、これらのアプリを搭載したタブレット端末の貸し出しを行った。								
指 標	原城 VR の貸し出し台数							
年 度	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 1 0		
目 標	1, 000 台	1, 000 台	1, 000 台	3, 000 台	3, 000 台	3, 000 台		
実 績	8 8 8 台	7 7 0 台	—	—	—	—		

(3) 世界遺産市民協働会議活動の充実

点検・評価のコメント及び活動内容等							達成度	評 価
① 世界遺産市民協働会議との連携事業							B	継続
○ 世界遺産を活用した地域の活性化を図るために、本市と南島原市世界遺産市民協働会議で連携を図りながら官民協働で、所属団体が実施する「南島原市の食文化を活かした文化観光コンテンツ増進事業」のサポートやお城 E X P O などの市外イベントへの出展などを実施した。								
指 標	市民協働会議関連会議などの開催回数							
年 度	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 1 0		
目 標	1 2 回	1 2 回	1 2 回	1 6 回	1 6 回	1 6 回		
実 績	1 8 回	1 2 回	—	—	—	—		

(4) 世界遺産の適切な保全と活用

点検・評価のコメント及び活動内容等							達成度	評価
① 世界遺産推進事業							B	継続
○ 世界遺産を後世に伝えるために、国や長崎県、他の構成資産所有自治体、関係者などと協力しながら、世界遺産のモニタリングや世界遺産センター整備事業や原城跡における便益施設整備事業にかかる遺産影響評価を実施した。								
② 世界遺産周知啓発・情報発信事業							C	継続
○ 市ホームページ、世界遺産フェイスブック、広報紙を、活用し世界遺産に関する企画展やワークショップの情報等を発信した。市内の小中学生や市内で実施される会議、各種イベントなどで、これまでに作成したパンフレットやグッズ（しおり・万年カレンダーなど）を配布し、原城跡の価値の伝達を行った。また、新たなグッズとして、オリジナル紙手提げ袋や半永久えんぴつ、コースターの作成を行った。								
③ 原城跡来訪者対応事業							B	継続
○ 原城跡の来訪者に史跡内を周遊していただくために、総合案内所の運営や原城温泉真砂と本丸間においてタクシーを利用した土日祝日の無料送迎を実施した。								
指標	原城跡来訪者数（②③）							
年度	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10		
目標	40,000 人	40,000 人	40,000 人	60,000 人	60,000 人	60,000 人		
実績	35,005 人	36,759 人	－	－	－	－		